

全国50,000人の“ボランティア救助員”の活動を支えます。



日本の海で
貴い命を守るため
青い羽根募金

青い羽根募金は、ボランティア救助員の活動を支え、海で貴い命を救助するために活用されています。皆様のご支援をお願いします。

MRJ 公益社団法人 日本水難救済会
後援:国土交通省、海上保安庁、総務省消防庁、水産庁

募金の方法

口座振込みによる募金

郵便局

口座番号:00120-4-8400
加入者名:公益社団法人 日本水難救済会

銀行

三井住友銀行日本橋東支店
口座番号:(普)7468319
加入者名:公益社団法人 日本水難救済会 青い羽根募金口

インターネット募金

青い羽根募金



- ホームページから以下の方法で募金ができます。
- クレジットカードはMasterCard、VISA、JCB、AMEXがご利用できます。

●お問い合わせ先

0120-01-5587

募金フリーダイヤルで
お申し出ください。振込料無料の
専用郵便振替用紙をお送りします。



★会★員★募★集★

公益社団法人日本水難救済会では、本会の会員(2号正会員または賛助会員)となって、本会の事業を支援していただける方々を募集しております。

◆入会を希望される方へ

入会を希望される団体又は個人の方は、本会のホームページの「会員登録／お問い合わせ」又はフックアスにて、住所、氏名など必要事項をご記入のうえ、本会にお申し込みください。



申込先:公益社団法人 日本水難救済会
ホームページ <https://www.mrj.or.jp/index.html>
TEL 03-3222-8066 FAX 03-3222-8067

公益社団法人日本水難救済会は、会員の皆様からの会費や青い羽根募金のほか、公益財団法人日本財団をはじめ、公益財団法人日本海事センター、海運・水産関係団体等の助成金、補助金をもって事業が運営されています。



公益社団法人 日本水難救済会

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地 海事センタービル7階

TEL:03-3222-8066 FAX:03-3222-8067

<https://www.mrj.or.jp> E-mail v1161@mrj.or.jp

公式X [@Qsuke_MRJ](https://twitter.com/Qsuke_MRJ)

令和6年度助成事業



マリンスキュー ジャーナル

Vol.117
2025年 1月号

MRJグラビア 令和6年度名誉総裁表彰式典

連載 マリンスキュー紀行 海の安全安心を支える ボランティアたちの群像

富山県水難救済会 富山救難所

青い羽根募金活動レポート2024

ボランティアスピリットの継承のために
水難救済思想の普及活動レポート

マリンスキューレポート

Part1 救難所NEWS

Part2 洋上救急NEWS

レスキュー41～

地方水難救済会の現状 シリーズ⑱

富山:立山連峰と雨晴海岸



海の水難救済ボランティア
公益社団法人 日本水難救済会



名誉総裁 年頭挨拶



本年も、全国の救難所員の皆様が、
海上における、人命、船舶の救済に力を尽くし、
海上産業の発展と海上交通の安全確保に
寄与されますとともに、
国民の皆様から益々信頼され、
ご活躍されますことを願っております。

令和7年1月1日
公益社団法人 日本水難救済会
名誉総裁 憲仁親王妃久子

年頭挨拶

令和7年の年頭にあたり、
謹んで新年のご挨拶を
申し上げます。

海上保安庁長官 瀬口 良夫



公益社団法人日本水難救済会は、明治22年11月の創設から、今年で136年目を迎えられることとなりました。

水難救済事業では、我が国の民間救助団体の中核として、昼夜を問わず全国各地で発生した海難に迅速かつ適切に対応いただき、今日に至るまで約20万人の方々、4万隻以上の船舶を救助されるなど、多大な功績をあげられております。

昨年9月、愛媛県佐田岬沖で15名乗りの遊漁船が座礁・漂流し、うち2名が海中転落するという事案があり、本事案では愛媛県水難救済会三崎救難所所属船に出動いただきました。

遊漁船は浸水し最終的には沈没しましたが、このような危険もある状況にもかかわらず、三崎救難所所属船の迅速かつ適切な救助により、乗員乗客15名全員の方の命を守ることができました。

また、昨年5月に琉球水難救済会において全国初の「機動救難所」を発足され、沖縄県ライフセービング協会に所属する方々が、救助員として特定の拠点を持たず自然海岸を巡回する、といった新しい活動形態の取組も始められており、日々水難事故に対する救助体制を強化されております。

あらためて、崇高な社会奉仕の精神のもと救助活動にご尽力される全国各地の救助員及び関係者の皆様方に、心から感謝申し上げます。

一方、洋上救急事業では、昭和60年10月の運用開始から、今年で40年目を迎えられ、昨年9月末に本州か

ら約1,430キロメートル離れた洋上で発生した日本漁船から傷病者を救助した事案をもって、洋上救急事業による出動実績が累計1,000件に到達されました。

この洋上救急事業は、遙か沖合の洋上で活動される方々のみならず、そのご家族及び関係者に大きな安心感を与えるなど、社会からの高い評価を得るとともに、海運業・水産業の根幹を支えております。

これらの功績は、人命救助のために活動されている約5万人の救助員の方々、洋上において傷病者に対し、緊急の医療活動を行っていただいている協力医療機関の皆様方のご尽力をはじめ、日本水難救済会の事業の推進にご協力いただいている数多くの関係団体、関係各位の多大なるご支援の賜物であると考えており、海上における安全の確保を任務とする海上保安庁を代表して、心から敬意を表します。

四方を海に囲まれた我が国において、より多くの命を救うためには、日本水難救済会及び地方水難救済会をはじめとする民間救助団体や協力医療機関の皆様方との連携をより一層強固なものとしていくことが重要であると改めて実感しております。

今後とも日本水難救済会の更なる発展のため、支援を継続していくとともに、海上における人命や財産の救助に万全を期す所存です。

最後になりますが、日本水難救済会の各種事業にご尽力されている皆様方のご健勝とさらなるご発展を祈念いたしまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。

令和7年の年頭にあたり
海上の安全と安心のために
皆様のご活躍を祈念申し上げます。

公益社団法人 日本水難救済会
会 長 相 原 力



令和7年の年頭にあたり、全国の地方水難救済会をはじめ各地の救難所・支所の救難所員とその活動を支えておられるご家族の皆様、洋上救急や青い羽根募金活動に携わっていただいている皆様に、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

全国の救難所員等の皆様におかれましては、昼夜を問わず海難救助出動等にご尽力をいただいております。関係者の皆様に心から敬意を表します。

海を現場とする海難救助活動は荒天下あるいは夜間での作業を余儀なくされ、救助活動にあたる救難所員の方々は危険に晒されることが多く、そのご苦労は大変なことと思います。

日本水難救済会は明治22年に大日本帝国水難救済会として創設以来、本年で136年を迎えることとなります。救難所員の皆様のご活躍により、令和6年度上半期までに全国で累計199,171人の尊い人命を救助してきた実績を誇っております。

昨年は9月末までに全国で217件の海難に対し、206名、85隻の船舶を救助し、沿岸における海難救助に多大な成果を上げることができました。

また、昨年は元旦に発生した能登半島地震により、能登水難救済会の救難所等に大きな被害をもたらしました。名誉総裁である高円宮妃久子殿下も大変心を痛められ、お見舞い及び励ましのおこたを賜りました。

日本水難救済会では、被災した救難所等の復興支援のための支援金募集を呼びかけさせていただきましたところ、昨年6月までに、全国から約9百万円を超える支援金が寄せられ、既に全額を能登水難救済会に配分したところでございます。被災した救難所等も一定の復興を果たしたところもございますが、9月に発生した豪雨による更なる被害も含め未だ多くの救難所は厳しい状況にありますので、当会としても今後とも出来る限りの支援を継続

していく所存でございます。

洋上救急につきましては、海上を活動の場とする船員やご家族の安心をもたらすものとして、関係の皆様からも高く評価されております。

令和6年度上半期においては14件に出動しており、昭和60年10月に洋上救急制度創設以来、累計の出動件数が丁度1,000件となりました。

厳しい環境の中で全力を挙げて対応して頂いている医療関係者をはじめ洋上救急を支えて頂いている関係の皆様方に御礼申し上げますとともに、今後とも一層の充実を図って参る所存でございますので、更なるご支援をよろしくお願いいたします。

青い羽根募金につきましては、昨年も海上保安庁をはじめ国土交通省、消防庁、水産庁、防衛省などの国の機関のほか、各種企業や海洋少年団などのご協力をいただき、青い羽根募金活動はもとより、青い羽根募金支援自動販売機の設置箇所の増にも取り組んで頂きましたことにより、多大な成果がございました。関係の皆様にご御礼を申し上げますとともに、更なる拡大を期待しておりますので皆様のご協力をよろしくお願い致します。

また、当会におきましては、夏場の遊泳中の事故等が相次いでいることを踏まえ、事故防止のための思想普及や安全指導を「海の安全教室」の実施や公式X(旧Twitter)を用いた周知活動を通じ、これまで以上に積極的に実施しております。

日本水難救済会は、全国約50,000人のボランティア救助員の活動の支援並びに洋上救急等について、本年も確かな運営を推進していく所存でございますので、よろしくお願い申し上げます。

年頭から厳しい環境の中、全国各地で活動している救難所員をはじめ関係者の皆様のご健勝とますますのご発展をご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



富士山

本年もどうぞよろしく願いいたします

明治22年11月3日に讃岐の金刀比羅宮において「大日本帝国水難救済会」の開会式が挙行され今日の日本水難救済会の礎が築かれて以来、本年11月で136周年を迎えることとなります。

これもひとえに日頃から昼夜を分かたず、沿岸海域での水難救済活動を実施されている全国の地方水難救済会の皆様、遥か洋上での救急医療活動に献身的に勤んでおられる洋上救急医療機関の皆様並びに国や地方自治体の関係機関及び海事・漁業等の関係団体の皆様のご支援とご指導の賜物と心より感謝しております。

令和7年1月

公益社団法人 日本水難救済会

理事長 遠山 純司

常務理事 江口 圭三

ほか 職員 一同



上段左から 根本総務部長代理、森経理部長、小幡第一事業部長、榎本第二事業部長代理、中山第三事業部長、廣岡経理部長
下段左から 佐藤総務部長、遠山理事長、相原会長、江口常務理事、鈴木第三事業部長



名誉総裁 高円宮妃殿下

海難救助に功績のあった5団体、洋上救急に功績のあった1団体及び事業功労に功績のあった1個人が表彰されました。

令和6年6月7日、東京都千代田区平河町の海運ビル(2階大ホール)において、本会名誉総裁高円宮妃殿下ご台臨のもと、来賓として^{さいとうてつお}齊藤鉄夫国土交通大臣及び^{いししゅうへい}石井昌平海上保安庁長官並びに本会の発祥の地、讃岐、金刀比羅宮の宮司 ^{ことおかやすひろ}琴陵泰裕氏をお招きし、「令和6年度名誉総裁表彰式典」を盛大かつ厳かに執り行いました。

表彰式典では、名誉総裁表彰を受章された6団体及び1個人に対して、名誉総裁 高円宮妃殿下から直接、表彰状とともに団体には名誉総裁盾、個人には名誉総裁章が授与されました。



式典会場に御入場される高円宮妃殿下



名誉総裁表彰式典の様子



式典次第



名誉総裁表彰式典の様子



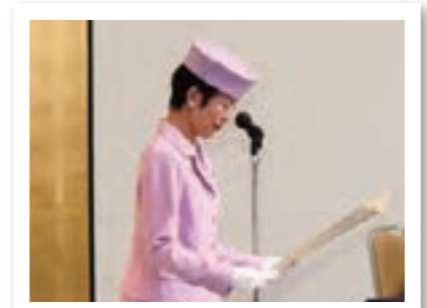
名誉総裁表彰審査委員会委員長挨拶
(日本水難救済会相原会長)



齊藤国土交通大臣祝辞



琴陵金刀比羅宮宮司祝辞



高円宮妃殿下による表彰



名誉総裁 高円宮妃殿下から表彰状等を授与された薩摩川内市上甌救難所(鹿児島)



名誉総裁 高円宮妃殿下から表彰状等を授与された薩摩川内市下甌救難所(鹿児島)

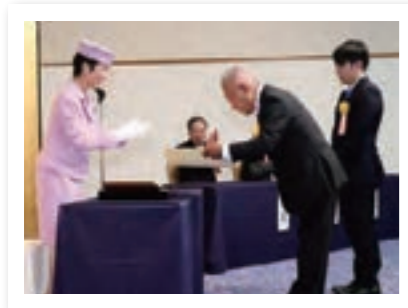


受章した薩摩川内市上甌救難所、
薩摩川内市下甌救難所の皆様

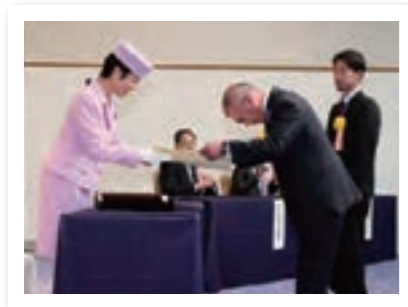


名誉総裁 高円宮妃殿下から表彰状等を授与された長生郡広域救難所(千葉)

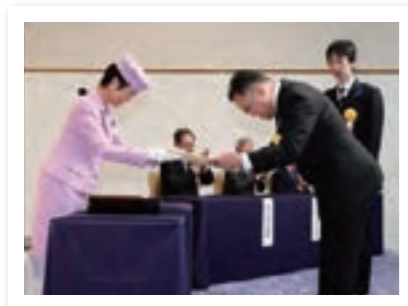




名誉総裁 高円宮妃殿下から表彰状等を授与された紀南東部救難所榎野支所(和歌山)



名誉総裁 高円宮妃殿下から表彰状等を授与された奈留町救難所(長崎)



名誉総裁 高円宮妃殿下から表彰状等を授与された市立釧路総合病院



名誉総裁 高円宮妃殿下から感謝状等を授与された磯 源喜氏



薩摩川内市下甑救難所 下野尚登氏による謝辞



式典会場を御退場される名誉総裁 高円宮妃殿下

令和6年度名誉総裁表彰受章者

■ 海難救助功労(団体)

鹿児島県水難救済会 薩摩川内市上甑救難所

令和5年5月24日午後1時41分頃鹿児島県薩摩川内市下甑島沖で発生した瀬渡し船火災事故に際し付近海域で作業中の救助船三代丸が海上に立ち上がる黒煙を視認するや直ちに同船に向け急行し爆発の危険がある火災船付近において自らの危険も顧みず複数の漂流者がいてプロペラ巻き込みの二次災害の危険があるなか巧みな操船技術を駆使し海に飛び込み漂流して救助を待っていた4名を極めて短時間に救助されました。



鹿児島県水難救済会薩摩川内市上甑救難所

■ 海難救助功労(団体)

鹿児島県水難救済会 薩摩川内市下甑救難所

令和5年5月24日午後1時41分頃鹿児島県薩摩川内市下甑島沖で発生した瀬渡し船火災事故に際し救助要請を受けるや直ちに救難所員14名が救助船鷹丸ほか5隻に乗船して現場に急行し爆発の危険がある火災船付近において自らの危険も顧みず複数の漂流者がいてプロペラ巻き込みの二次災害の危険があるなか巧みな操船技術を駆使し海に飛び込み漂流して救助を待っていた10名を極めて短時間に救助されました。



鹿児島県水難救済会薩摩川内市下甑救難所

■ 海難救助功労(団体)

千葉県水難救済会 長生郡広域救難所

令和5年9月8日台風13号の影響による河川氾濫により茂原市内の各地で浸水被害を受け多くの市民が自宅等に取り残され急迫した危険があるなか消防本部から救援要請を受けるや直ちに所属救難所員5名を同市下永吉地区に出動させ河川氾濫で浮遊物が多く要救助者を一人ずつしか救出できない状況のなかでレスキューボードを使用又は泳ぐなどし、午後2時頃から午後10時頃までの間複数箇所に取り残されていた22名を無事救助されました。



千葉県水難救済会長生郡広域救難所

■ 海難救助功労(団体)

和歌山県水難救済会 紀南東部救難所榎野支所

令和5年10月8日午後1時30分頃和歌山県東牟婁郡串本町所在の榎野崎沖で発生した機関故障船漂流事故に際し救助要請を受けるや直ちに救難所員3名が救助船誠龍丸に乗船して現場に急行し現場海域は強雨と強風及び高波の影響で要救助船への接近が極めて困難な状況の中で機関故障船から海に飛び込んだ3名全員を乗員一致協力して自船に引き揚げ無事救助されました。



和歌山県水難救済会紀南東部救難所榎野支所

令和6年度名誉総裁表彰受章者

■ 海難救助功労(団体)

とくといひえいりかつどうほうじんながさきけんすいなんきゅうさいかいなるちようきゅうなんしよ
特定非営利活動法人 長崎県水難救済会 奈留町救難所

令和5年10月23日午後2時45分頃長崎県五島市奈留町沖で発生した旅客船浸水事故に際し救助要請を受けるや直ちに救難所員7名が救助船五樹漁ほか2隻に乗船して現場に急行し救助現場においては船尾部が海面下に水没しつつある同船に接触し高齢の乗客など自力での移乗が困難な乗客を抱きかかえる等して極めて短時間で救助活動を行い、乗船者16名全員を無事救助されました。



特定非営利活動法人長崎県水難救済会奈留町救難所

■ 洋上救急功労(団体)

しりつくしろそうごうびょういん
市立釧路総合病院

緊急に医師の加療を要する船舶上の傷病者に対する人命救助と船員福祉の向上を目的として、昭和60年10月から開始された洋上救急事業の協力医療機関として、昭和62年11月以来これまでに30件の洋上救急事案に対して36名の医師及び看護師を巡視船や航空機等に同乗させて出動し、傷病者に対して医療処置を行い、尊い人命の救助に貢献されました。



市立釧路総合病院

■ 事業功労(個人)

いそちとき
磯源喜氏

令和6年能登半島地震災害の報道に大きな衝撃を受けたことがきっかけとなり、何か力になれることがないかと考えていたところ、「青い羽根募金：能登半島地震災害支援金」の募集を知り、本会が行う水難救済事業に感銘を受け重要性を深く認識するとともに、ボランティア救助活動等の支援に役立ててほしいと考え、令和6年1月22日及び令和6年1月31日に「青い羽根募金」に多額の寄附をされました。



磯源喜氏

★ご来賓の皆様



左から齊藤国土交通大臣、石井海上保安庁長官、琴陵金刀比羅宮宮司



石井海上保安庁長官による挨拶

名誉総裁表彰式典の後、名誉総裁や来賓の皆様等とご懇談いたしました。



受章者の紹介



日本水難救済会 相原会長挨拶



石井昌平海上保安庁長官挨拶



名誉総裁 高円宮妃殿下と受章者の懇談



懇談会で受章者と名誉総裁 高円宮妃殿下との記念写真撮影が行われました。
 上段左から 薩摩川内市上甕救難所及び薩摩川内市下甕救難所、長生郡広域救難所、紀南東部救難所榎野支所
 下段左から 奈留町救難所、市立釧路総合病院、磯源喜氏



受章者と笑顔で懇談される名誉総裁 高円宮妃殿下



北海道海難防止・水難救済センター近藤龍洋 理事長挨拶

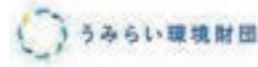
日本水難救済会における事業活性化を促すための活動報告

■海のそなえプロジェクト始動!

海のそなえプロジェクトは以下のコンソーシアムにて推進します



日本財団



一般財団法人
うみらい環境財団



公益財団法人
日本ライフセービング協会



公益財団法人
日本水難救済会

毎年繰り返される水難事故、特に若年層の事故を防止するため、民間組織を中心としたオールジャパン体制を構築し、以下を目的としたプロジェクトを令和6年度から本格始動!

- ① 水難事故防止に対する常識の再検証 (「浮いて待て」(大の字背浮き)は海や川で本当に可能か?等)
- ② 水難事故原因の調査分析～溺れるメカニズムの明確化
- ③ AI等を活用した事故防止コンテンツ開発
- ④ 安全性に考慮したファッショナブルで機能的な遊泳補助具の開発、普及
- ⑤ 教育現場の実態把握、問題点の整理
- ⑥ 水難事故防止のための効果的な教育プログラム開発、普及体制構築

これらを通じて日本の水難事故の撲滅を目指す!!

■「海のそなえシンポジウム」開催!

令和6年6月19日、「海のそなえプロジェクト」のキックオフとして、東京ポートシティ竹芝ポートホールにて「海のそなえシンポジウム」を開催しました。(当会遠山理事長が登壇、藤本美貴さんやロンドンブーツ1号2号の田村淳さんも参加)

水難事故対策の常識を疑うとして、1万人を対象としたアンケート結果、溺れた体験のできるVR映像を提示、水難事故対策の現状や課題、水難事故防止アイテム、対策の仕組みづくり、海を安全に楽しむためのアプローチ等について、活発な意見を交わしました。



出席者の皆様



パネラーを務める遠山理事長(写真右上)

■「海のそなえ」講習会等を開催!

★日本体育大学にて開催(東京都)

令和6年5月11日、7月13日、日本体育大学健志台キャンパス、世田谷キャンパスにおいて、小学生、大学生、一般(合計約50名)を対象とした公開講座を開催しました。

遠山理事長、江口常務理事が講師として、「海のそなえ」について講義を行い、併せて、開発中のフローティングアイテムの紹介、試着会も実施しました。



公開講座参加者へ講義を行う遠山理事長



公開講座参加者へ講義を行う江口常務理事



フローティングアイテムの紹介を行う江口常務理事

★木津川市立恭仁小学校にて開催(京都府)

令和6年7月9日、木津川市立恭仁小学校において、江口常務理事が全校生徒(45名)を対象とした「海のそなえ講習会」を開催しました。

講習会前日は教員と保護者に対し、「海のそなえ」についての講話を行いました。



教員と保護者に対し、「海のそなえ」についての講話を行う江口常務理事

★釧路市鳥取温水プールにて開催(北海道)

令和6年7月23日、釧路市鳥取温水プールにおいて、中央小学校、新陽小学校の5、6年生64名を対象に、釧路市、釧路市教育委員会主催の「小学生を対象とした水辺の事故防止の体験講習会」が実施され、江口常務理事が救命胴衣の着用方法を説明しました。



救命胴衣の着用体験

★鎌倉市由比ヶ浜にて開催(神奈川県)

令和6年7月25日、鎌倉市由比ヶ浜において、小学生と保護者23名を対象に、「海のそなえ」講習会を実施しました。江口常務理事が講師となり、水難事故防止のための知識と技能について説明しました。当日は波が高く、海に入ることはできませんでしたが、救命胴衣の着用体験も行いました。



テレビ局の取材を受ける江口常務理事



講習会に参加した受講者へ知識と技能について説明する江口常務理事

■一般財団法人 日本モーターボート競走会への安全講習協力

日本モーターボート競走会が全国の支部に対して実施する安全講習会で使用する動画テキストの収録に海上保安庁とともに協力しました。

本テキストは、全国の競艇関係者の事故発生時の対処要領の基本となっています。以後、毎年全国のボートレース場に出向き、安全講習を実施しています。



全国ボートレース場へ行き、安全講習を行っている様子

■海の安全教室等の安全講習会の実施

①日本体育大学公開講座「備えて海で楽しもう」(5月11日@健志台、7月13日@世田谷) ※再掲



- ② 東京湾遊漁船業協同組合主催令和6年度落水者救助訓練(6月4日@大田区平和島)
- ③ 京都府木津川市立恭仁小学校「海の安全教室」(7月9日@恭仁小学校)
- ④ 横浜市港南区洋光台保育園「海の安全教室」(7月16日@洋光台保育園)
- ⑤ 横浜市保土ヶ谷区昂保育園「海の安全教室」(7月19日@昂保育園)
- ⑥ 千葉県長生郡長生村立一松小学校「海の安全教室」(7月16日@一松小学校)



「海の安全教室」の様子

- 7 大分水難救済会「水防災危機対応学習」(7月27日@大分県中津市山国川水防待機所)
- 8 北海道海難防止・水難救済センター「水辺の事故防止体験講習会」(7月23日@釧路市)
- 9 東京都千代田区立九段中等教育学校「遠泳行事」への協力(7月29日～31日@千葉県勝浦市守谷海岸)
- 10 琉球水難救済会「機動：海の安全教室」(8月12日@沖縄県アハラビーチ)
- 11 日本モーターボート競走会「安全講習会」(9月5日@平和島、20日@徳島県鳴戸)

■ 水難救済会知名度向上のための講演

- 1 東京西北ロータリークラブでの講演(6月3日@東京都内)



東京西北ロータリークラブで講演を行う遠山理事長



遠山理事長と当会の麻生理事

- 2 日本体育大学救急医療学科「海上保安庁の救急搬送業務」講演(6月25日@日体大健志台キャンパス)
- 3 海上保安庁教育機関、幹部研修での講演(7月10日、10月22日@海上保安大学校)
- 4 上野トランステック(株)海上安全推進会での講演(7月22日@横浜市内)



海上保安大学校で講演を行う遠山理事長



マリンレスキュー ジャーナル

Vol.117
2025年1月号

CONTENTS

- 01 名誉総裁 年頭挨拶
- 02 海上保安庁長官 年頭挨拶
- 03 公益社団法人 日本水難救済会会長 年頭挨拶
- 04 公益社団法人 日本水難救済会役員 年頭挨拶
- 05 MRJグラビア 令和6年度名誉総裁表彰式典
- 11 日本水難救済会における事業活性化を促すための活動報告
- 17 連載 マリンレスキュー紀行
海の安全安心を支えるボランティアたちの群像
富山県水難救済会 富山救難所
- 20 全国地方救難所のお膝元訪問
ミッポン港グルメ食遊記(富山救難所)
- 21 青い羽根募金活動レポート2024
令和6年度青い羽根募金強調運動(「青い羽根募金強調運動期間キャンペーン」ミス日本「海の日」有馬佳奈さんに協力いただきました。閣僚の皆様へ青い羽根を着用いただきました。ミス日本「海の日」が斉藤国土交通大臣等を表敬訪問。)/公共交通機関の駅にポスターを掲載/総理官邸及び各省庁に募金箱を設置して頂きました/
令和6年度「青い羽根募金」の状況/青い羽根募金活動を実施/令和6年度青い羽根募金運営会議を開催/
「青い羽根募金」にご協力をいただいた企業・団体等に感謝状を贈呈
- 25 水難救済思想の普及活動レポート
海の安全教室
- 28 マリンレスキューレポート
Part1 救難所NEWS 海難救助訓練ほか/水難救助等活動報告
- 36 Part2 洋上救急NEWS 洋上救急活動報告/地方支部の活動状況/洋上救急慣熟訓練/
中央及び地方支部の活動状況等
- 43 レスキュー41～地方水難救済会の現状(シリーズ⑩)
宮城県水難救済会
- 45 新設救難所等の紹介
- 47 MRJ 互助会通信
- 50 MRJ フォーラム
(公社)日本水難救済会通常理事会、定時社員総会を開催
(投稿)第一管区海上保安本部
- 53 令和6年における日本水難救済会会長表彰受章者一覧、編集後記

写真：富山湾

海の安全安心を支える ボランティアたちの群像



富山県水難救済会
富山救難所

▲(左から)富山市消防局 富山北消防署 種さん(海上分遣所消防艇「神通」機関長)、小澤さん(署長)、水口さん(消防課長 兼 海上分遣所長)

富山湾の特殊な自然環境で 日々救難活動に取り組む

取材協力:富山県水難救済会、富山市消防局富山北消防署

富山県の北部に位置する富山湾。大部分は水深300m以上で、最深部は1,000mを超えるほどの急峻さが特徴の海域だ。深い部分の水温は低い一方、表層部は比較的温かいため、獲れる魚種が約500種類以上と非常に多い。地域では漁業が盛んで、特にブリ、



▲富山救難所が併設されている富山北消防署 海上分遣所

白エビ、ホタルイカは全国的に有名である。豊富な魚を求めての釣り客が、季節を問わず数多く訪れている。

しかしながら、西側に能登半島が控え、北東に大きく開口した袋状の地形のため、北東方面からの高波が容易に侵入する。こうした高波による波浪被害が多いこともこの海域の特徴だ。

特に「寄り回り波」と呼ばれる、この海域独特の高波がある。低気圧が北にいった後、天気が晴れて波が静まった時、突如として押し寄せる高波のことだ。低気圧により



北海道の西側の海域で発生した波が富山湾まで伝搬される形だが、それまでに天気は回復するので不意を突かれることになる。

「過去、この高波による被害は数多くありました。今でも特に他地域からの釣り人など寄り回り波のことを知らない人は、天気が回復したからと船を出し、高波に襲われるというケースがあります」と富山救難所の機関長である種 倫宏さんは話す。

消防職員と消防団員が 海難救助隊員を兼務

富山救難所があるのは、富山港の一角にある富山北消防署海上分遣所内、同署の消防隊員60名の全員が富山救難所の所員も兼務している。そのほか、地域の消防団の海上分団員32名も加わり、総勢92名という大所帯だ。

「全国の救難所でも多いほうだと思います」と富山北消防署長で富山救難所所長も兼ねる小澤喜治さんは言う。ちなみに、富山県水難救済会にはほかに魚津、新湊、氷見の各救難所が富山湾沿いに点在する。他の救難所の所員も、それぞれが各地域の消防署員や消防団員であるが、歴史的な経緯で富山県水難救済会の隊員は消防職員と消防団員で構成されている。

同救難所による出動実績は、2020年から24年10月までの5年弱で24件。うち、実際に救助したのは10件である。その中には、ミニボートや海水浴客といったレジャー客も含まれる。近くにはプレジャーボートの係留場もある。免許不要のミニボートで沖に出て流されたり、プレジャーボードの工



▲海王丸台風海難事故(撮影:北日本新聞社)

ンジントラブルで漂流するといったケースが多い。近くには岩瀬漁港があって漁船が頻繁に往来しているが、漁船のトラブルは滅多にないという。

救助に至っていない半数は、ボートが漂流しているのを見た人が通報し出動したものの無人だったケースなど。海岸に置かれていたボートが風で押し流されたものと思われた。流木を人と見誤ったケースもあった。

帆船「海王丸」の 座礁事故

そうした中で、最も印象に残っている救難事例を小澤さんに伺うと、二件あると言う。一件は、2004年10月20日に発生した

航海練習帆船「海王丸」の座礁事故だ。折からの台風23号を避けるために富山港沖に投錨し停泊したが、暴風によって走錨し、富山港の防波堤付近に座礁。船底に何か所も穴があいて最上部の船室まで沈没してしまったのだ。

「その日は富山市内の各所で台風による被害が発生し、消防隊員は出動して対処していたところ、私の部隊に海王丸救助の命令が下ったのです。現場に向かうと、腰や胸まで水に漬かった練習生や乗組員が救助を求めています」と小澤さんは述懐する。

まだ強風が吹き荒れている中、海王丸の船体は大きく動いていた。そんな船体に脱出補助用のロープを繋ぎ、近くのテトラポットに結んだものの、せいぜい5t程度のテトラポットでは、大きく動く2,556tの船体を繋ぎ留められない。そこで、小澤さんらは咄嗟のアイデアでほうぼうのテトラポットなどにジグザグにロープをかけ、滑車も用いて力を減殺。さらに人力でロープを引っ張りながら167名 of 全乗組員を救助した。

「うち数名が負傷していましたが、出動した全機関の隊員を含め全員命が無事で良かったです」と(小澤さん)。任務完了まで12時間半を要する救助だった。



◀富山市消防局が所有する消防艇「神通」



◀富山市消防局が所有する救命艇「じんつう」

車の転落事故を機に 救助用機器を開発

もう一件は、2000年頃に起きた車の転落事故。岩瀬漁港の岸壁から乗用車が転落したという報が入った。

「駆けつけると、海中に沈んだ直後でした。そこで私が素潜りで飛び込み、ドアを開けようとしたのですが施錠されていたのです。そこで、窓ガラスを叩き割ろうとハンマーなど様々な道具でトライしたのですが、水の抵抗で力が伝わらず無理でした。結果的にクレーンで引き上げましたが、30分ほどを要してしまっただけです」と小澤さんは打ち明ける。救助されたドライバーは搬送先の病院で死亡が確認された。

この事故を機に、小澤さんは消防署の仲間とともに「水中強化ガラス破壊器具」を2年がかりで開発する。水道管の中に先を尖らせた打撃棒を入れ、強化バネに繋がせてハンドルを引いて離すと打撃棒が飛び出すという構造のものだ。管の先端部には吸盤をつけて車の窓に吸着させ、固定できることで、水中でも窓ガラスを瞬間的に割ることができる。



▲水中強化ガラス破壊器具(提供:小澤喜治氏)

この開発で、小澤さんらは(財)全国消防協会の平成16年度「消防機器の改良開発及び消防に関する論文」機器の部で最優秀賞に輝いた。



▲富山救難所海難救助隊員を兼務されている富山北消防署員の皆さん

「当時、こうした器具はまだ存在しておらず、どうしても時間がかかるクレーンによる救助しかなかったのです。これによって助かる命も助けられないケースが続きました。その後、メーカーが専用器具を開発しましたが、それまでの間はこの手作りの器具が多少なりとも貢献できたのでは、と思っています」と小澤さんは話す。

人命救助への思いを 次世代に受け継ぐ

なぜ海難救助に熱心に取り組むのか。小澤さんはその思いを次のように語る。

「海での事故は、陸上から離れていると近くに助けてくれる人がおらず、命の危機に直結します。だからこそ、遭難者があれば常に全力で救助に当たらなければなりません。我々救難所所員は全員、そうした使命感を持っています」

そのために、日頃の訓練も怠ら



▲富山港の近くの岩瀬地区(大町・新川通り)には、江戸～明治期の廻船問屋が立ち並び歴史的な景観が残され、観光地となっている



▲富山港のシンボル「富山港展望台」 ▲岩瀬漁港は日本一の白エビの水揚げ高を誇る

ない。月2回の航海訓練や潜水訓練、年1回の海難救助訓練のほか、県の消防学校による潜水技術向上などの訓練、海上保安部との合同訓練がある。「我々は高齢化していくので、新人の導入と育成も大きな課題」と種さんは話す。

富山救難所の今後の課題としては、まずは設備の更新を着実にを行うことが挙げられる。富山北署が保有する消防艇「神通」は建造から36年が経ち、老朽化のため2026年に新艇が導入されるなどの計画がある。

「レジャーや漁業も時代の変化で新たなものが出てきます。こうした変化に対応し、しっかりした準備をすることが不可欠です。そして、一番大事なのは、人命救助への思いを次の世代に受け継いでいくことが何より大切であると考えています」と小澤さんは結んだ。

全国地方救難所のお膝元訪問

ニッポン 港 グルメ食遊記



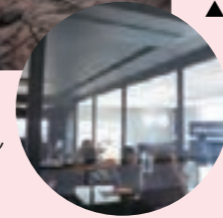
▲カフェに併設されたガレージ。左はダッジ チャレンジャー RT1970、右はランボルギーニアヴェンタドール



▲ミニカーのコレクションも展示



▲1階のカフェスペースとキッチン



▲2階席からもガレージを見下ろせる



▲カフェのガラステーブルの台にはタイヤのホイールが

海上分団の分団長(富山救難所員)であるオーナーの網谷一吉さん▶



▲Mサイズの「白えびピザ」、サラダ付で1,100円

kitchen & cafe GAREGARE

岩瀬浜駅と富山救難所の中間点にある「kitchen&cafe GAREGARE」。スーパーカーを眺めながら白えびを使ったメニューが楽しめる、真新しくお洒落なお店だ。

岩瀬浜駅から徒歩3分というロケーションの「kitchen&cafe GAREGARE」。現役の白エビ漁師である海上分団分団長(富山救難所員)の網谷一吉さんが、「多くの人に白えびを味わってほしい」と2019年にオープンした。

店舗は2階建てで、1階の北側半分はガレージとなっており、2台の外車が並んでいる。

「オーナーは車好きで、ガレージを併設し愛車を見てもらいながら食事を楽しんでもらえる店をつくりたいと思ったそうです」と店長の北島由里恵さん。

客席は、1階に25席、2階に16席の計41席が、ゆったりと配置されている。メニューは、ランチや軽食向けのものが主体で、地ビールも揃えている。

目玉のメニューは、やはり白エびを使ったもの。白えびの刺身をたっぷり100尾以上をご飯に乗せた数量限定の「白えび桶」(白えびの味噌汁、漬物付で3,630円、単品2,970円)が目玉。ひつまぶしのようにダシと特製の白えび粉で「だし茶漬け」でも楽しめる。

ほかにカジュアルな「白えびのかき揚げバーガー」「白えびコロッケバーガー」(フライドポテトセット870円、単品650円)や、変わったところでは「白え

びピザ」(Mサイズ1,100円)が人気だという。

「ほかのお店ではお刺身やかき揚げといった定番が多い中、『こんな食べ方もあるの!?!』と驚かれるお客様もいます」(北島さん)

客層は、平日は周辺住民が主だが、休日ともなると近くの歴史的な街並みに訪れる観光客が多く立ち寄りという。

「岩瀬には予約しないと白えび食べられないお店が多いですが、当店はフラッと来店いただいても楽しんでいただけます」と北島さんは微笑む。



住所: 富山県富山市岩瀬天神町3

電話: 076-460-4008

営業時間/11:00~17:00、金曜日・土曜日夜カフェ~22:00

全国50,000人のボランティア救助員の活動を支えます。

青い羽根募金活動レポート2024



街頭募金活動にご協力を頂いた海洋少年団などの皆様



— 令和6年度 青い羽根募金強調運動 —

日本水難救済会では、周年、青い羽根募金活動を展開していますが、特に「海の日」を中心に7月から8月までの2ヵ月間を「青い羽根募金強調運動期間」として、全国の道府県水難救済会と協力して全国的な運動を展開しています。

全国の多くの皆様方から青い羽根募金の趣旨にご賛同と暖かいご支援をいただくとともに、海上保安庁、防衛省等関係省庁をはじめ自治体、企業、団体等からもご支援をいただきました。特に、防衛省の陸上、海上および航空自衛隊の隊員の皆様や海洋少年団並びに学校生徒会等の皆様には募金活動に多大なご協力をいただき御礼申し上げます。

また、令和6年7月12日(金)の閣僚懇談会においても、全閣僚(各省庁、政務三役)の皆様に着用していただき、青い羽根募金活動へのご理解とご協力を広くお願いいたしました。

皆様には募金活動に多大なご協力、ご支援をいただき厚く御礼申し上げますとともに、今後も青い羽根募金の趣旨へのご賛同とご支援のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

「青い羽根募金強調運動期間」キャンペーン 2024ミス日本「海の日」の有馬 佳奈さんにご協力いただきました。

令和6年7月12日(金)、「青い羽根募金強調運動期間」中、キャンペーンの一環として、公益社団法人日本水難救済会 相原会長と遠山理事長は、2024ミス日本「海の日」の有馬佳奈さんとともに、斉藤国土交通大臣、瀬口海上保安庁長官、消防庁長官並びに海上保安庁等関係機関の幹部の皆様方を表敬訪問し、「青い羽根」を着けて頂き、青い羽根募金運動の普及推進と強調運動期間等でのご支援、ご協力をお願いしました。



ミス日本「海の日」有馬佳奈さんと公益社団法人日本水難救済会 相原会長

■ 閣僚の皆様に着用していただきました



青い羽根を着用している
斉藤国土交通大臣



令和6年7月12日の閣議前に全閣僚の皆様に着用していただきました。
(左から、斉藤国土交通大臣、鈴木財務大臣、林外務大臣)

■ ミス日本「海の日」が斉藤国土交通大臣をはじめ海上保安庁、消防庁及び水産庁の長官を表敬訪問



斉藤国土交通大臣への表敬訪問



吉岡国土交通事務次官への表敬訪問



水嶋国土交通審議官への表敬訪問



瀬口海上保安庁長官への表敬訪問



池田消防庁長官への表敬訪問



森水産庁長官への表敬訪問

■ 公共交通機関の駅にポスターを掲載



東武鉄道池袋駅、和光市駅に掲載されたポスター



京浜急行品川駅、平和島駅に掲載されたポスター

■ 総理官邸及び各省庁に募金箱を設置して頂きました



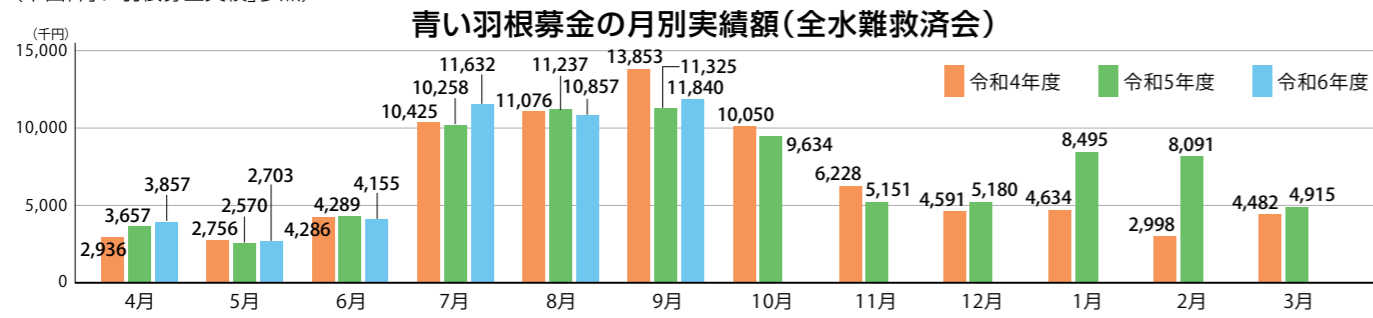
総理官邸に
設置された募金箱



中央合同庁舎3号館に
設置された募金箱

— 令和6年度「青い羽根募金」の状況 —

皆様のご支援により、令和6年4月から9月末までに、累計45,044,294円の募金をいただきました。
(下図「青い羽根募金実績」参照)



— 青い羽根募金活動を実施 —



海上保安庁音楽隊定期演奏会会場における募金活動



2024ミス日本「海の日」有馬佳奈さんによる「海の日」海事関係功労者祝賀会会場における募金活動



横浜開港祭ザプラスクルーズ2024会場における募金活動



— 令和6年度青い羽根募金運営協議会を開催 —

令和6年5月21日、海事センタービル7階会議室において、令和6年度青い羽根募金運営協議会が開催されました。

同協議会には委員である外部の有識者6名等が参加し、令和5年度の青い羽根募金活動及び実績並びに募金の使用実績が審議されたほか、令和6年度の青い羽根募金活動計画が審議され承認されました。



青い羽根募金運営協議会の様子

「青い羽根募金」は、海難救助ボランティアの活動を支えています

全国津々浦々で活躍する約50,000人の民間ボランティア救助員が、効果的かつ安全な海難救助を行うためには、常日頃から組織的な訓練を行うとともに、ライフジャケットやロープなど救助資機材の整備が必要となります。

このため、公益社団法人日本水難救済会では、昭和25年から「青い羽根募金」を開始し、こうした民間ボランティア救助員の救難活動に必要な資金を確保するため全国の一般市民の皆様や企業の皆様方に募金をお願いしております。

「青い羽根募金」は、公益社団法人日本水難救済会のホームページ(<https://www.mrj.or.jp/index.html>)から「インターネット募金」をする方法や「青い羽根募金」口座に直接振り込む方法等のほか、清涼飲料水を購入することにより、売上金の一部が自動的に「青い羽根募金」として寄附される「青い羽根募金支援自販機」を利用する方法もあります。皆様方のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

— 「青い羽根募金」にご協力をいただいた企業・団体等に感謝状を贈呈 —

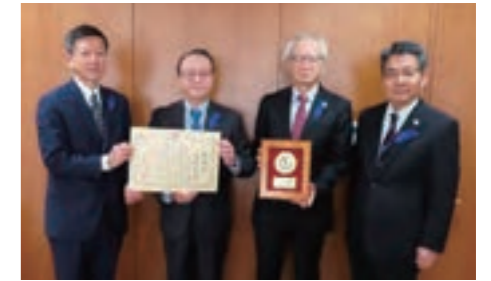
■ 近代化学株式会社 様

令和6年11月19日、近代化学株式会社において、日本水難救済会遠山純司理事長(写真左)から同社代表取締役社長 岡部達彦 様(写真中央)へ日本水難救済会会長感謝状と事業功労有功盾が伝達されました。



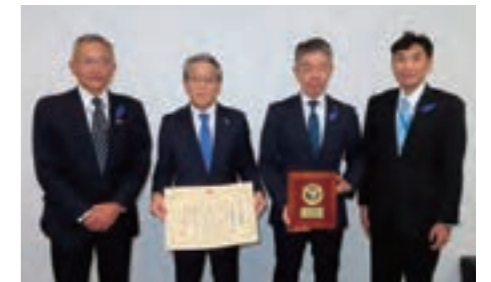
■ 五洋建設株式会社 様

令和6年11月22日、五洋建設株式会社において、日本水難救済会遠山純司理事長(写真左)から同社代表取締役社長 清水琢三 様(写真左から2人目)へ日本水難救済会会長感謝状と事業功労有功盾が伝達されました。



■ 東洋建設株式会社 様

令和6年11月22日、東洋建設株式会社において、日本水難救済会江口圭三常務理事(写真左)から同社代表取締役社長 中村龍由 様(写真左から2人目)へ日本水難救済会会長感謝状と事業功労有功盾が伝達されました。



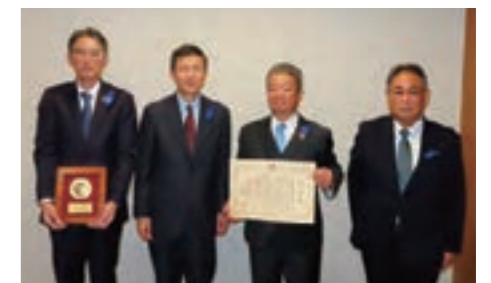
■ 若築建設株式会社 様

令和6年11月25日、若築建設株式会社において、日本水難救済会遠山純司理事長(写真右から2人目)から同社代表取締役社長 烏田克彦 様(写真左から2人目)へ日本水難救済会会長感謝状と事業功労有功盾が伝達されました。



■ 東亜建設工業株式会社 様

令和6年11月25日、東亜建設工業株式会社において、日本水難救済会遠山純司理事長(写真左から2人目)から同社代表取締役社長 早川 毅 様(写真右から2人目)へ日本水難救済会会長感謝状と事業功労有功盾が伝達されました。



■ 海上自衛隊 横須賀地方総監 様

令和6年12月13日、海上自衛隊横須賀地方総監部において、日本水難救済会遠山純司理事長(写真右から2人目)から海上自衛隊横須賀地方総監 真殿知彦 様(写真左から2人目)へ日本水難救済会会長感謝状と事業功労有功盾が伝達されました。





ボランティアスピリットの継承のために
**水難救済思想の
 普及活動レポート**

佐賀県水難救済会がリョーユー幼稚園で「海の安全教室」を開催

海の安全教室

平成13年度から平成28年度まで全国の小中学校等で児童・生徒を対象に「若者の水難救済ボランティア教室」を開催し、講師の海上保安官やライフセーバーの皆さんから海での事故を防ぐための知識のほか、万一、自分や友達等が海で遭難した時に助かる術と安全に助ける術を実地に手ほどきを受けていましたが、平成29年度からは、名称を「海の安全教室」と変更し、対象を子供たちだけでなく、教師や保護者をはじめ、地元一般市民にまで拡大し、全国各地で展開しています。

公益社団法人 琉球水難救済会

「沖縄マリンフェスタ2024」来場者を対象とした「海の安全教室」を開催

令和6年4月6日、7日、「沖縄マリンフェスタ2024」開催中の宜野湾港マリーナ特設会場において、来場者70名を対象とした「海の安全教室」を開催しました。

国際潜水教育科学研究所及び沖縄ライフセービング協会から講師を招き、医療用酸素についての解説及び心肺蘇生法の体験講習を行いました。



心肺蘇生法の手順の説明を受ける受講者



実際のダミー人形を活用して救命措置を行う受講者

佐賀県水難救済会

幼稚園児を対象とした「海の安全教室」を開催

令和6年6月24日、25日、リョーユー幼稚園及び昭和幼稚園において年長園児（合計164名）を対象に「海の安全教室」を開催しました。

唐津海上保安部から講師を招き、救命胴衣着用体験、ライフリングを用いた輪投げ体験、環境紙芝居の読み聞かせを行い、付近海岸で海浜清掃を行いました。



ライフリングを用いた輪投げ体験をする園児（リョーユー幼稚園）



付近海岸で海浜清掃を行う園児（リョーユー幼稚園）



救命胴衣着用体験をする園児（昭和幼稚園）



付近海岸で海浜清掃を行う園児（昭和幼稚園）

北海道海難防止・水難救済センター

中学生を対象とした「海の安全教室」を開催

令和6年7月9日、小樽市立望洋台中学校体育館において、2年生47名、教員2名を対象に、同センター職員5名により、離岸流、ライフジャケット着用、救命筏、艀装品、心肺蘇生法の講習を実施しました。



救命胴衣の取り扱いについて説明を受ける生徒



広島県水難救済会

外部講師を招き小学生を対象とした「海の安全教室」を開催

令和6年7月10日～8月2日、五日市中央小学校、藤の木小学校、矢野南小学校、河内小学校、長迫小学校、大乘小学校において、広島海上保安部、呉海上保安部、日本赤十字社、(株)シーサイトから講師を招き、川や海に出かける際の備えや心構え、着衣泳の技能、救命胴衣の着用方法を学びました。



川や海に出かける際の備えや心構えを学ぶ生徒(五日市中央小学校)



実際に救命胴衣を着用しプールにて浮力を確認する生徒(大乘小学校)



海上保安部職員から海難事故防止の説明を受ける生徒(藤の木小学校)

富山県水難救済会

高等専門学校生、中学生を対象とした「海の安全教室」を開催

令和6年6月12日から7月12日、富山高等専門学校、水橋中学校、岩瀬中学校、北部中学校、和合中学校において、生徒計453名を対象に、伏木海上保安部、新湊消防署、水橋消防署、富山北消防署から講師を招き「海の安全教室」を実施しました。講義「海浜事故防止のために」(伏木海上保安部)、救命講習「普通救命1」「心肺蘇生法(AED含む)」(消防署)について詳しく学習しました。



海上保安部職員から海浜事故防止について学ぶ学生(富山高等専門学校)



消防署職員から心肺蘇生法を学ぶ学生(富山高等専門学校)



海上保安部職員から海浜事故防止について学ぶ学生(北部中学校)



消防署職員から心肺蘇生法を学ぶ学生(北部中学校)

海難救助訓練ほか

令和6年度は、9月末までに全国の地方水難救済会において延べ31回訓練が開催され、45の救難所・支所から798名の救難所員が参加して各種訓練が行われました。



島根県出雲市大社漁港にて大社町所在の各救難支所及び海上保安部等との合同訓練における火災船からの人命救助訓練の様子(写真提供:島根県水難救済会)

岩手県漁船海難防止・水難救済会

海上保安部と曳航救助訓練を実施

令和6年3月12日、大船渡港茶屋前地区岸壁において、大船渡救難所及び金石海上保安部が曳航救助訓練を実施しました。訓練の実施により、救難所員の迅速かつ海難救助対応能力の向上が図られました。



訓練に参加した救難所員と海上保安部職員



巡視艇と救助船による曳航訓練



公益社団法人 琉球水難救済会

宜野湾マリーナ救難所救難所員が、ライフスレッド救助訓練を実施

令和6年8月28日、宜野湾市宜野湾港マリーナ港内において、沖縄ライフセービング協会及び宜野湾市消防潜水隊から講師を招き、水上バイク・ライフスレッド取扱説明を受け、救助訓練を実施しました。

訓練参加者は、取扱説明及び実技を通じて確かな知識及び技術を学び、反復継続した独自訓練の必要性を認識しました。



ライフスレッド取扱説明



ライフスレッドを利用した救助方法の実演



講師によるデモンストレーション

山形県水難救済会

酒田市水難救助合同自主訓練を実施

令和6年7月6日、山形県漁協本所上屋において、酒田救難所、袖浦救難所、宮海救難所、酒田海上保安部職員、酒田地区広域行政組合消防署みなと分署職員、酒田市危機管理課 が参加し、救難資材・器具点検、基本動作訓練、心肺蘇生法、救命索操法の訓練を実施しました。

救難所員は、専門職員からの指導を受け、各々が基本動作の確認等により、救難技術の向上に有意義な訓練となりました。



心肺蘇生法訓練



救命索操法完熟訓練

公益社団法人 福岡県水難救済会

浸水船救助訓練・乗揚船救助訓練を実施

令和6年7月15日、福岡県糟屋郡新宮町相島港において、相島救難所が4隻の船を使用し訓練を実施しました。

天候も悪く雨風の中の訓練となりましたが、所員の手順、動きに問題なく、滞りなく行うことができました。



放水訓練



浸水船からの人命救助訓練



救命索発射訓練

熊本県水難救済会

消防関係機関と救難所員との合同実地訓練を実施

令和6年7月7日熊本県宇土市下網田町所在の宇土マリーナにおいて、宇城広域連合 消防本部・北消防署員、消防団員、宇土市職員と合同でAEDを用いた救急法講習、陸上で浮環にロープを結索し、要救助者へ投げる救助訓練を実施しました。



AEDを用いた救急法講習



救命浮環を使用した救助訓練

新潟県水難救済会

消防署職員を招いて救難所員実地訓練を実施

令和6年5月14日新潟県村上市寝屋漁港内において、村上市消防署山北分署より講師を招き、救命索発射訓練、放水訓練、AED講習を行いました。指揮系統に基づく号令かけを重点的に行い、有事の際は迅速に対応できるように意識して実施しました。



放水訓練



AED使用による心肺蘇生法講習

海上保安部職員を招いて救難所員実地訓練を実施

令和6年7月9日新潟県三島郡出雲崎町所在の出雲崎港岸壁において、新潟海上保安部から講師を招き、基本動作の確認及び救命索発射器取扱訓練を実施しました。



基本動作の確認



救命索発射訓練

特定非営利活動法人 神奈川県水難救済会

バックボードによる水難救助訓練を実施

令和6年6月18日神奈川県湯河原町所在の福浦ダイビングサービスにおいて、湯河原消防署から講師を招き、バックボードの使い方の説明と実技訓練を実施しました。近年、サップなどによる漂流事故、ダイバー増加による事故が増加傾向にあるため、本訓練を行ったことにより、迅速かつ安全で適格な救助活動の実施に繋がることが期待されます。



バックボードの使い方の説明



参加者全員での記念撮影

水難救助等活動報告

令和6年度上半期に報告のあった、
主な水難救助活動の事例を報告します。

水難救助等の事業は、長大な海岸線を有する日本の沿岸海域における事故災害に対応する公的救難防災体制を補完するため、民間ボランティアによる救助救援活動です。

この活動を可能にする体制を確立するため日本財団をはじめ関係団体からも助成・補助を受けています。



1 入港遅延漁船の搜索救助

和歌山県水難救済会 紀南東部救難所 串本支所

令和6年7月21日午後4時10分頃、串本町出雲所在のコマキノ瀬において、釣り人1名が、潮位が上がって磯場が海面にほぼ没したため孤立状態となりました。串本海上保安署から救助要請を受けた串本支所の救難所員は救助船「美智丸(4.9トン)」に乗り組み出動し、孤立した釣り人を船内に引き上げ救助しました。



孤立した釣り人に接近する救助船「美智丸」



釣り人を救助船内に引き上げ救助



② 転覆したプレジャーボートを曳航救助

鳥取県水難救済会 マリーナ大栄救難所

令和6年6月26日午後11時15分頃、東伯郡北栄町由良川河口にて航行中の船舶が、転覆したプレジャーボートの船底に同船船長がつかまっているのを発見し、119番通報を行いました。中部消防署から出動要請を受けたマリーナ大栄救難所の所長が直ちに現場に急行し、捜索を行ったところ、同船長は自力で陸に上がり、緊急車両に救助されたことが判明しました。翌27日、救難所員及び協力者はプレジャーボートを重機等にて陸揚げし、救助活動を終了しました。



陸揚げされたプレジャーボートの状況

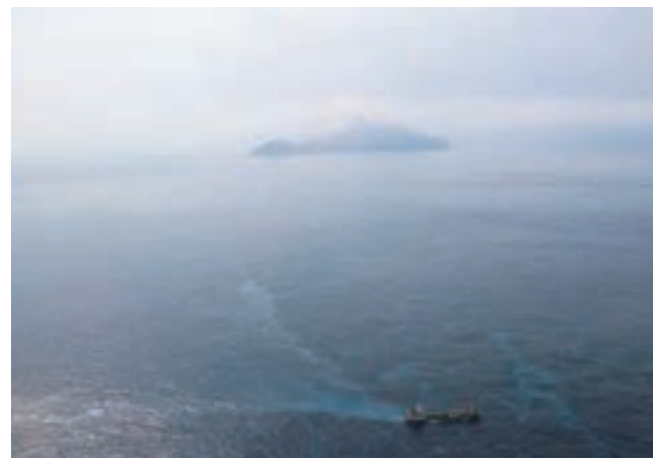


転覆したプレジャーボート

③ 救座礁したケミカルタンカーの乗組員を救助

鹿児島県水難救済会 奄美市救難所

令和6年4月16日午後4時15分頃、口之島北西の浅瀬において、14名乗船の韓国船籍ケミカルタンカーが座礁しました。付近海域を航行中の救助船「斗南(19トン)」船長は118番通報するとともに、海上保安庁から救助要請を受け、自船を同ケミカルタンカーに横付けし、乗組員14名全員を移乗させ救助活動を終了しました。



座礁したケミカルタンカー



④ 帰還不能となったウィンドサーファーを救助

千葉県水難救済会 富津岬PW救難所

令和6年8月10日午前9時20分頃、富津岬展望塔北側海域にてウィンドサーファーが流され帰還不能となりました。木更津海上保安署から出動要請を受けた富津岬PW救難所の救難所員は救助船「JUSTYⅢ(0.1トン)」に乗り組み出動し、要救助者を発見後、付近航行中のプレジャーボートの協力により下洲の砂浜まで搬送し救助を完了しました。



協力船による救助活動の状況

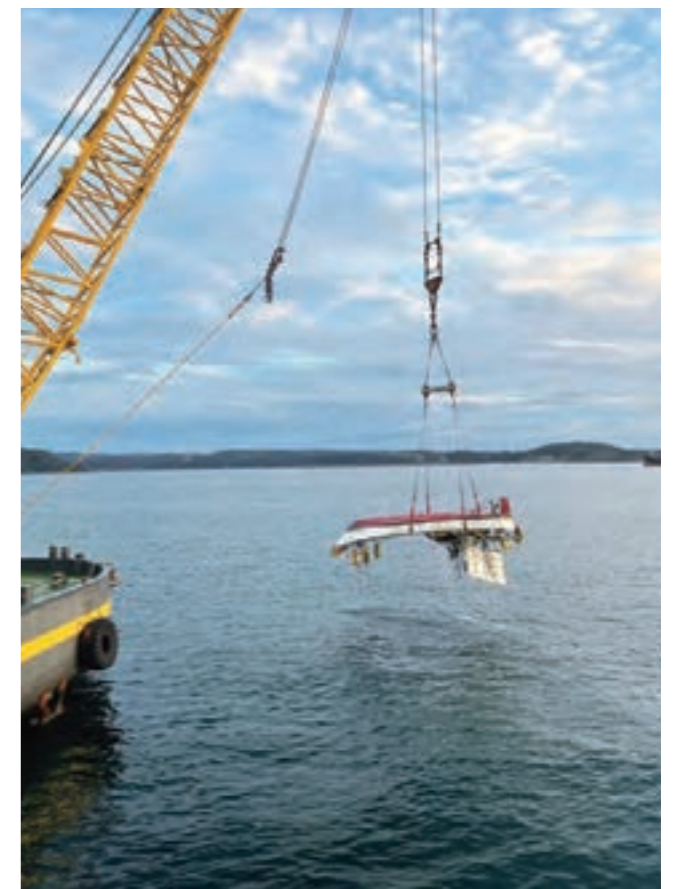
⑤ 台船に衝突した小型船舶から投げ出され、救助された3名を搬送

佐賀県水難救済会 玄海中地区救難所

令和6年9月10日午後3時30分頃、唐津市鎮西町加唐島と加部島の間で台船と衝突した小型船の乗員3名が海中転落しました。唐津海上保安部から出動要請を受けた玄海中地区救難所の救難所員4名は、救助船「天王丸(9.1トン)」にて出動し、台船により救助された3名を救助船に移乗させ呼子港まで搬送し、救急隊に引き継ぎ救助を完了しました。



転覆した小型船



小型船引き上げの状況

⑥ 浸水したミニボートを曳航救助

福井県水難救済会 小浜市水難救難所

令和6年6月22日午前9時30分頃、小浜市所在の田島港明神鼻灯台の西海域にて2名乗りのミニボートが浸水のため航行不能となりました。小浜海上保安署から出動要請を受けた小浜市水難救難所の救難所員1名は救助船「天祐丸(1.1トン)」にて出動し、ミニボートを矢代漁港まで曳航し救助を完了しました。ミニボート乗船の2名は「巡視船あおかせ」に救助されました。



救助船「天祐丸」によるミニボートの曳航準備作業を行う救難所員

⑦ 浸水した水上バイクを曳航救助

千葉県水難救済会 富津岬PW救難所

令和6年8月11日午前11時30分頃、富津市下洲漁港東海域において1名乗り水上バイクが浸水し航行不能となりました。要救助者の仲間より出動要請を受けた富津岬PW救難所の救難所員4名は、救助船「富津岬をまもる会(0.1トン)」にて出動し、浸水した水上バイクを下洲漁港まで曳航し救助を完了しました。



救助に向かう救助艇「富津岬をまもる会」

航行不能の水上バイクを曳航する救助艇

⑧ 転覆船から瀬に避難した要救助者を救助

長崎県水難救済会 野母崎救難所

令和6年10月25日午後3時25分頃、長崎市千々町所在の二ツ岳崎の瀬付近においてミニボートが転覆し、乗船者が瀬に避難し118番通報を行いました。長崎海上保安部から出動要請を受けた野母崎救難所の救難所員5名は救助船「輝瞳丸(4.9トン)」にて出動し、要救助者とミニボートを救助船内に引き上げ救助しました。



岩礁に避難した要救助者



救助船「輝瞳丸」船内に救助した要救助者とミニボート

洋上救急活動報告



昭和60年10月の事業開始以来、令和6年10月末日までに1,002件の洋上救急事案に対応しています。

(写真提供: 海上保安庁)

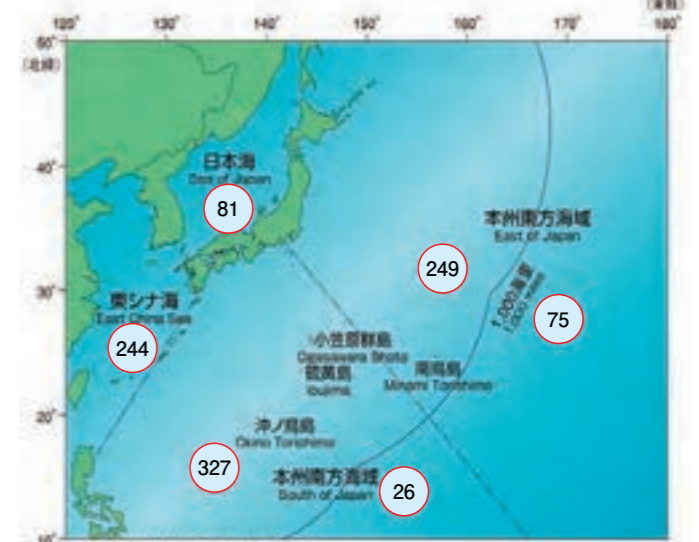
令和6年9月28日

洋上救急の出動件数が事業開始以来累積1,000件となりました!



洋上救急とは、我が国周辺海域又は遥か洋上の船舶内で傷病者が発生し、緊急に医師の加療を必要とする場合、海上保安庁の巡視船・航空機又は自衛隊機の協力を得て本会の協力医療機関の医師・看護師等を現場に派遣し、傷病者の応急治療を行いつつ、最寄りの病院に緊急搬送するシステムです。

洋上救急事案の発生地域図



○数字は地域別の発生件数を示す
Numbers indicate cases of rescue operations.
昭和60年度～令和6年10月31日現在 総件数1,002件

最近の主な洋上救急活動事例

海上保安庁巡視船及び航空自衛隊ヘリコプターが連携し、海底ケーブル敷設船から乗組員を搬送

令和6年5月9日 13:00発生

令和6年5月9日午後1時頃、金華山灯台から東南東約350海里付近海上を航行中の海底ケーブル敷設船から海上保安庁に対し、「乗船者1名(日本人男性)が体調不良となり、無線で医療助言を受けたところ、脳卒中又は重度のアルコール離脱が疑われ、早急に医療機関への搬送が必要であるとの助言を受けた。」旨の通報がありました。

海上保安庁(第二管区海上保安本部)は、所属航空機による救助を検討するとともに、海上保安庁勢力での救助では時間を要するため、早期救助が可能な航空自衛隊百里基地救難隊に災害派遣要請を打診し、5月9日午後4時に受理されました。医師等の派遣については、日本医科大学付属病院に対し派遣要請を打診し、医師2名の派遣の承諾を得ました。翌10日午前9時20分、ヘリコプターUH-60Jに医師2名が同乗のうえ百里基地出発。すでに傷病者を揚収していた巡視船「くりこま」からUH-60Jに患者を収容。医療行為を実施しつつ搬送し、同日午後12時19分、百里基地到着。救急車にて石岡脳神経外科病院へ搬送しました。

- 【発生位置】金華山灯台から東南東約350海里付近海上
- 【傷病者】男性44歳(日本国籍 乗船者)
- 【出動医療機関】日本医科大学付属病院
医師2名
- 【出動勢力】海上保安庁:巡視船くりこま ヘリコプターMH979
機動救難士2名
航空自衛隊:航空機U-125 ヘリコプターUH-60J



傷病者が「巡視船くりこま」搭載艇に移乗する様子



航空自衛隊百里救難隊ヘリコプターUH-60Jでの傷病者吊上げの様子



航空自衛隊百里救難隊ヘリコプターUH-60Jでの傷病者吊上げの様子

(写真提供:海上保安庁)

航空自衛隊ヘリコプターUH-60Jにより外国籍コンテナ船乗組員を搬送

令和6年5月28日 00:27発生

令和6年5月28日午前0時27分頃、金華山灯台の東南東、約800海里付近海上を航行中のコンテナ船から海上保安庁に対し、「乗組員が転倒、首を強打し意識あるも動けなくなった。医療助言を受けたところ、四肢麻痺を伴う脊髄損傷の疑いがあるため、早急に医療機関への搬送が必要である」との助言を受けた旨の通報がありました。

海上保安庁(第二管区海上保安本部)は、所属航空機による救助を検討するも、海上保安庁勢力での救助では時間を要するため、5月29日午後1時に早期救助が可能な航空自衛隊松島基地救難隊に災害派遣を要請し、同時刻に受理されました。医師等の派遣については、石巻赤十字病

院に対し派遣要請を打診し、医師1名、看護師1名の派遣の承諾を得ました。29日午後2時40分、UH-60Jに医師及び看護師が同乗のうえ松島基地出発。コンテナ船からUH-60Jに患者を収容。医療行為を実施しつつ搬送し、同日午後5時37分、松島基地到着。救急車にて石巻赤十字病院へ搬送しました。

- 【発生位置】金華山灯台から東南東約800海里付近海上
- 【傷病者】男性36歳(スリランカ国籍 乗組員)
- 【出動医療機関】石巻赤十字病院
医師1名、看護師1名
- 【出動勢力】海上保安庁:巡視船しもきた
航空自衛隊:航空機U-125A ヘリコプターUH-60J

海上自衛隊救難飛行艇US-2により右眼球破裂により負傷した漁船乗組員を搬送

令和6年9月4日 16:42発生

令和6年9月4日午後4時42分頃、金華山灯台の東北東、約1,700海里付近海上を航行中の漁船から海上保安庁に対し、「乗組員が、イカ釣り針が右目瞼に刺さり負傷した。宮城県利府掖済会病院から医療助言を受けたところ、早急に医療機関への搬送が必要である」との助言を受けた旨の通報がありました。

海上保安庁(第二管区海上保安本部)は、同船の位置を踏まえ、船主に対し距離的に近い米国に向かうよう指導を続けるも、船主は本邦で受診したい旨の姿勢を固持し、同船は八戸向け航行を継続しているため、日本側での救助する計画としました。

海上保安庁は、所属航空機による救助を検討するとともに、同行勢力での救助では時間を要するため、9月7日午前10時に早期救助が可能な海上自衛隊に災害派遣を要請し、同午前10時05分に受理されました。

医師等の派遣については、八戸市立市民病院に対し派遣要請を打診し、医師2名、看護師1名の派遣の承諾を得ました。8日午前11時00分、US-2に医師及び看護師が同乗のうえ海上自衛隊八戸航空基地出発。先着し患者を収容していた巡視船くりこまからUS-2に患者を収容。医療行為を実施しつつ搬送し、同日午後5時57分、八戸航空基地着。救急車にて八戸市立市民病院へ搬送しました。

- 【発生位置】金華山灯台から東北東約1,700海里付近海上
- 【傷病者】男性25歳(インドネシア国籍 乗組員)
- 【出動医療機関】八戸市立市民病院
医師2名、看護師1名
- 【出動勢力】海上保安庁:巡視船くりこま 機動救難士2名
海上自衛隊:岩国航空基地救難飛行艇US-2 P-3C



海自救難飛行艇US-2



US-2に乗り込む医師等



巡視船くりこまからUS-2搭乗員へ傷病者を引き継ぐ様子



八戸航空基地職員から救急隊へ傷病者を引き継ぐ様子

(写真提供:海上自衛隊)

その他の主な洋上救急の状況 (令和5年11月1日～令和6年10月31日現在)

航空自衛隊ヘリコプターUH-60Jにより急性心筋梗塞の疑いの漁船乗組員を搬送

令和5年12月2日 15:35発生

令和5年12月2日午後3時35分頃、金華山灯台から東190海里付近海上を航行中の漁船船長から海上保安庁あて、一般電話により「甲板作業中の乗組員が突然倒れた。意識もなくCPRを実施しAEDで3回電気ショックを実施。ショックは不要とのアナウンスになった。救助を要請する」旨通報がありました。

海上保安庁(第二管区海上保安本部)は、所属航空機による救助を検討、海上保安庁勢力での救助では時間を要するため、早期救助が可能な航空自衛隊松島基地救難隊に災害派遣要請を打診し、12月2日午後6時14分に受理されました。

医師等の派遣については、仙台医療センターと石巻赤十字病院に対し派遣要請を打診し、仙台医療センターか

ら医師等の派遣を石巻赤十字病院から要救助者の受け入れの承諾を得ました。

午後8時10分、UH-60Jに医師1名、看護師1名が同乗のうえ松島基地出発、該船から午後9時53分UH-60Jに患者を収容した後、医療行為を実施しつつ搬送し、同日午後11時00分、松島基地到着、救急車にて石巻赤十字病院へ搬送しました。

【発生位置】金華山灯台から東約190海里付近海上

【傷病者】男性66歳(日本国籍 乗組員)

【出動医療機関】仙台医療センター

医師1名、看護師1名

【出動勢力】海上保安庁:巡視船ざおうヘリコプターMH960

機動救難士2名

航空自衛隊:松島基地救難隊ヘリコプターUH-60J

飛行機U-125A

海上保安庁ヘリコプターが高知県室戸岬沖海上を航行中の外国籍コンテナ船機関長を搬送

令和5年12月27日 10:20発生

令和5年12月27日午前10時20分頃、室戸岬東方約110海里付近海上にて、リベリア籍コンテナ船の船舶運航者から、海上保安庁あて、「機関長が腹痛のため苦しんでいる。救助願う。」との通報がありました。

海上保安庁(第五管区海上保安本部)は、12月27日午前10時20分、高知医療センターに医師等の派遣を要請しました。

同日午後0時15分、高知空港において、関西空港海上保安航空基地所属のヘリコプターMH688に医師1名及び看護師1名が搭乗し現場向け出発しました。

同日午後零時57分、該船と会合、ヘリコプターにより患者を吊り上げ救助し、午後1時25分に航空機内に収容、医療行為を実施しつつ搬送し、午後2時11分、高知空港へ到着し、消防救急隊へ引き継ぎました。

【発生位置】室戸岬東方約110海里付近海上

【傷病者】男性57歳(エジプト国籍 機関長)

【出動医療機関】高知県:高知市病院企業団立高知医療センター

医師1名、看護師1名

【出動勢力】海上保安庁:関西空港海上保安航空基地ヘリコプターMH688

機動救難士2名

航空自衛隊ヘリコプターが三重県大王崎南方海上を航行中の外国籍貨物船乗組員を搬送

令和6年2月23日 15:44発生

令和6年2月23日午後3時44分頃、大王崎から南方約85海里付近海上にて、マーシャル諸島共和国籍貨物船の代理店から、海上保安庁(第四管区海上保安本部)あて、熊野灘沖航行中の外国貨物船M号において乗組員が腎臓辺りに痛みを訴えているとの救助要請がありました。名古屋掖済会病院の医療助言により早急な措置が必要と判断されたことから同病院に対し医師等の派遣を要請するとともに同日午後8時5分航空自衛隊浜松基地に災害要請を行い受理されました。

同日午後9時22分航空自衛隊浜松基地所属のヘリコプターUH-60へ医師1名及び看護師1名が搭乗し現場

向け中部空港を出発しました。

同日午後10時18分、該船と会合、ヘリコプターにより患者を収容、医療行為を実施しつつ搬送し、午後11時8分、中部空港へ到着、消防救急隊へ引き継ぎました。

【発生位置】大王崎南方約85海里付近海上

【傷病者】男性35歳(ウクライナ国籍 一等航海士)

【出動医療機関】名古屋掖済会病院

医師1名、看護師1名

【出動勢力】海上保安庁:中部空港海上保安航空基地ヘリコプターMH960

潜水士2名 鳥羽海上保安部巡視船いすず

航空自衛隊:第一航空団(浜松基地)ヘリコプターUH-60J

-飛行機U-125A

洋上救急慣熟訓練

洋上救急出動の要請を受け、医師や看護師は慣れない巡視船や航空機に乗り込んで遥か洋上まで出動し、厳しい条件のもとで救命治療を行う事となります。それに備えるために全国で慣熟訓練が行われています。

今回は、訓練が4つの地方支部で合計5回開催されました。

日本海中部地区 (R5.12.8実施)

令和5年12月8日

洋上救急慣熟訓練を実施

小笠原港でヘリコプターに搭乗して洋上救急慣熟訓練を行いました

【訓練実施機関】
第八管区海上保安本部警備隊幹部教習課
金沢海上保安部警備隊幹部課
新潟航空基地 消防機航空機40470、機動救難士

【参加医療機関】
石川県立中央病院 医師2名、看護師2名

南九州地区 (R5.12.18実施)

令和5年12月18日

洋上救急慣熟訓練を実施

鹿児島航空基地で洋上救急慣熟訓練を行いました。ヘリコプターを使用した訓練で、機内のスペースや医療設備を確認し、緊急中における注意事項等の再確認を行いました。

【訓練実施機関】
第十管区海上保安本部警備隊幹部教習課
熊本海上保安部警備隊幹部課
宮崎海上保安部警備隊幹部課
鹿児島航空基地 消防機航空機AW139
石川航機しきしま運搬機SP232
機動救難士

【参加医療機関】
いまじいの総合病院 医師1名、看護師2名
鹿児島徳洲会病院 医師2名
鹿児島大学病院 医師2名
鹿児島市立病院 医師4名
鹿児島市医師会病院 医師1名、看護師2名
大塚徳洲会病院 看護師2名
鹿児島県立大島病院 医師2名、看護師2名
鹿児島市立大さだ病院 看護師1名
米塚病院 医師2名、看護師2名、救急士3名
宇高市立総合医療センター 看護師1名
上天草市立上天草総合病院 看護師2名
熊本総合病院 看護師2名
宮崎県立宮崎病院 看護師2名
宮崎中部医師会病院 医師2名
宮崎大学医学部附属病院 医師1名、看護師1名

東海地区 (R5.12.19~20実施)

令和5年12月19・20日

洋上救急慣熟訓練を実施

中部空港海上保安航空基地で2日間にわたって洋上救急慣熟訓練を行いました

【訓練実施機関】
第四管区海上保安本部警備隊幹部教習課
名古屋海上保安部警備隊幹部課
名古屋海上保安部警備隊幹部課
名古屋海上保安部警備隊幹部課
名古屋海上保安部警備隊幹部課
名古屋海上保安部警備隊幹部課

【参加医療機関】
名古屋掖済会病院 医師2名、看護師2名
名古屋掖済会病院 医師2名、看護師2名
名古屋掖済会病院 医師2名、看護師2名
名古屋掖済会病院 医師2名、看護師2名
名古屋掖済会病院 医師2名、看護師2名
名古屋掖済会病院 医師2名、看護師2名

北九州地区 (R6.2.29実施)

令和6年2月29日

洋上救急慣熟訓練を実施

鹿児島航空基地で洋上救急慣熟訓練を行いました。機内のスペースや医療設備を確認し、緊急中における注意事項等の再確認を行いました。

【訓練実施機関】
第十管区海上保安本部警備隊幹部教習課
熊本海上保安部警備隊幹部課
宮崎海上保安部警備隊幹部課
鹿児島航空基地 消防機航空機AW139
石川航機しきしま運搬機SP232
機動救難士

【参加医療機関】
いまじいの総合病院 医師1名、看護師2名
鹿児島徳洲会病院 医師2名
鹿児島大学病院 医師2名
鹿児島市立病院 医師4名
鹿児島市医師会病院 医師1名、看護師2名
大塚徳洲会病院 看護師2名
鹿児島県立大島病院 医師2名、看護師2名
鹿児島市立大さだ病院 看護師1名
米塚病院 医師2名、看護師2名、救急士3名
宇高市立総合医療センター 看護師1名
上天草市立上天草総合病院 看護師2名
熊本総合病院 看護師2名
宮崎県立宮崎病院 看護師2名
宮崎中部医師会病院 医師2名
宮崎大学医学部附属病院 医師1名、看護師1名

東海地区 (R6.7.24~25実施)

令和6年7月24・25日

洋上救急慣熟訓練を実施

中部空港海上保安航空基地で2日間にわたって洋上救急慣熟訓練を行いました

【訓練実施機関】
第四管区海上保安本部警備隊幹部教習課
名古屋海上保安部警備隊幹部課
名古屋海上保安部警備隊幹部課
名古屋海上保安部警備隊幹部課
名古屋海上保安部警備隊幹部課
名古屋海上保安部警備隊幹部課

【参加医療機関】
名古屋掖済会病院 医師2名、看護師2名
名古屋掖済会病院 医師2名、看護師2名
名古屋掖済会病院 医師2名、看護師2名
名古屋掖済会病院 医師2名、看護師2名
名古屋掖済会病院 医師2名、看護師2名
名古屋掖済会病院 医師2名、看護師2名

中央及び地方支部の活動状況等

令和6年度に行われた洋上救急支援協議会等の活動状況等を一部紹介します。

中央洋上救急支援協議会第38回通常総会等が開催されました

令和6年6月27日、東京平河町、海運クラブにおいて、中央洋上救急支援協議会第39回通常総会が開催されました。

開催にあたり、(公社)日本水難救済会相原会長の挨拶及び中央洋上救急支援協議会内海和彦会長の挨拶の後、議案の審議となりました。

- 議案は、
- 第1号議案「令和5年度事業報告について」
 - 第2号議案「令和5年度収支決算について」
 - 第3号議案「令和6年度事業計画について」
 - 第4号議案「令和6年度収支予算について」
 - 第5号議案「役員を選任について」

について審議がなされ、それぞれ異議なく承認されました。

議案審議ののち、報告事項として

「洋上救急事業の出動対象者に「医療機関勤務の救急救命士」を追加することについて」の報告がなされました。

次に、連絡事項として

- ①洋上救急の年度別出動実績等について
- ②中央洋上救急支援協議会「幹事」「顧問」の交代について
- ③洋上救急功労者の表彰実績等について

の報告がなされ、その後、来賓の石井昌平海上保安庁長官からご挨拶をいただき、総会を終えました。

また、通常総会終了後には、公益社団法人日本水難救済会 相原会長から洋上救急功労者の表彰式が行われました。



第39回通常総会の様子



内海和彦会長挨拶



石井昌平海上保安庁長官挨拶

洋上救急功労で日本水難救済会の会長表彰を受章された方々を紹介します

<団体表彰:銀色名誉有功表彰>

(受章者) 日本医科大学付属病院
(出動回数10回)



受章代表の日本医科大学付属病院 芝地純菜氏に表彰状等が贈呈されました。



銀色名誉有功盾



金色有功盾



受章された日本医科大学付属病院芝地純菜氏(写真中央左側)と同付属病院増野智彦氏(写真中央右側)との集合写真

<個人表彰:金色有功表彰>

(受章者) 日本医科大学付属病院
医師 増野智彦氏(出動回数3回)

(受章者) 日本医科大学付属病院
医師 寺岡晋太郎氏(出動回数3回)

洋上救急功労で日本水難救済会の会長表彰を受章された方々を紹介します

<個人表彰:金色有功表彰>

(受章者) 東海大学医学部付属病院
医師 足立基代彦氏(出動回数3回)

(受章者) 東海大学医学部付属病院
看護師 久保康隆氏(出動回数3回)



受章された東海大学医学部付属病院足立基代彦氏(写真中央左側)と同付属病院久保康隆氏(写真中央右側)との集合写真

地方支部洋上救急支援協議会の総会等が開催されました

■ 北部九州地区洋上救急支援協議会
(7月9日)



総会の様子(北部九州地区)

■ 東海地区洋上救急支援協議会
(7月19日)



総会の様子(東海地区)

■ 関西四国地区洋上救急支援協議会
(7月23日)



総会の様子(関西四国地区)

■ 南九州地区洋上救急支援協議会
(7月30日)



業務紹介を行う日本水難救済会 遠山純司理事長



総会の様子(南九州地区)

■ 八戸市洋上救急支援協議会
(8月19日)



業務紹介を行う日本水難救済会 江口圭三常務理事



総会の様子(八戸市)

■ 日本海中部地区洋上救急支援協議会
(9月27日)



総会の様子(日本海中部地区)



レスキュー41～地方水難救済会の現状 (シリーズ⑱)

水難救済を通じて社会的要請に的確に応えていくための取り組みとして、水難救済への思いを同じくする仲間において情報を交換し、意識の高揚を図るため、平成27年(2015年)1月から「レスキュー41～地方水難救済会の現状」として地方組織について紹介しております。

今回は、宮城県水難救済会を紹介致します。

宮城県水難救済会

1 設立年月日

平成11年4月1日設立

2 所在地

〒986-0032 宮城県石巻市開成1番27

宮城県水産会館内

☎0225-21-5740 FAX.0225-21-5636

◎交通案内

・公共交通機関

JR仙石線、仙石東北ライン 石巻駅下車 徒歩25分



宮城県水難救済会が入居する
宮城県水産会館(石巻)



寺沢 春彦 会長

3 役職員の数

会 長 寺沢 春彦

副 会 長 石森 裕治

その他役員 理事4名、監事2名

4 沿革・歴史等 (主なもの)

明治22年 / 大日本水難救済会発足

明治39年39月12日 / 日本水難救済会宮城県支部発足
(事務局 宮城県漁協内)

明治24年 3月10日 / 石巻救難所

明治42年 4月 1日 / 荒浜救難所(巨理)

明治42年 5月15日 / 関上救難所(救難組合として発足)
昭和6年3月3日(救難所に昇格)

平成11年 4月 1日 / 宮城県水難救済会へ名称変更

平成13年 8月 1日 / 七ヶ浜救難所

平成13年10月 1日 / 唐桑救難所

同上 / 階上救難所

同上 / 大谷本吉救難所

同上 / 十三浜救難所

同上 / 雄勝救難所

平成13年10月 1日 / 女川救難所

同上 / 表浜救難所

同上 / 東浜救難所

平成14年 2月 1日 / 塩釜救難所

平成15年 5月14日 / 石巻湾救難所(小安協母体)

平成19年 1月 / 南三陸救難所

平成29年 9月30日 / 石巻救難所(廃止)

平成29年10月 1日 / 寄磯救難所

平成29年11月 1日 / 石巻湾救難所

平成29年12月 6日 / 網地島救難所

■救難所配置図



5 救難所・支所の数 (令和6年4月1日現在)

救難所: 16カ所 救難所員数524名

6 地域の特性等

宮城県は全国屈指の水産県です。本県の沿岸域は、県の中央部に突出した牡鹿半島を境に、北は複雑に屈曲した海岸線のリアス式海岸、南は平坦な砂浜海岸が仙台湾を形成するなど、地形の変化富んでおり、ノリ、カキ、ワカメ、ホヤ、ホタテガイ、ギンザケなどの養殖業やサケ、タラ、カレイなどを対象とした刺網漁業、小型底びき網漁業などの漁船漁業が盛んです。

また、本県沖合は親潮と黒潮がぶつかる生産性の高い海域であり、三陸沖漁場は世界3大漁場としても有名です。さらに、本県には143の漁港と9か所の水産物産地卸売市場があり、気仙沼、南三陸、石巻、女川、塩釜は沿岸・沖合・遠洋漁業の基地であるとともに、魚市場などの流通機能や水産加工業が集積する水産都市となっております。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、本県水産業は甚大な被害を受けましたが、国の支援や、全国民の皆様から多くの支援をいただきながら水産業関係者が一丸となって復旧・復興に取組み、産業規模は概ね震災前の水準まで回復しました。現在は水産業が豊かな自然と調和しながら、地域社会を支える活力ある産業として一層発展するよう努めております。



宮城県石巻市の太平洋上に位置する島(金華山)



日本一おいしい養殖ワカメ



多くの新鮮な魚が水揚げ、市場でのセリ風景

7 主な保有資器材

安全帽200、救命胴衣(固型式)62、救命胴衣(膨張式)206、強力ライト30、双眼鏡13、携帯用拡声器18、携帯用発電機4、投光器3、探照灯6、キャップライト18、救命索発射器3、救命浮輪38、担架9、ロープ7、毛布42、救急セット11、自動体外式除細動器(AED)2、消火器13、消防兼排水ポンプ3、携帯用無線電話機34 など

8 保有救助船

各救難所の所員が所有する救助船 524隻

9 活動状況(令和5年度)

救助出動実績

◎海難救助出動件数→5件 ◎出動救難所員等数→延べ35名

◎出動船舶数→延べ12隻 ◎救助人命→4名 ◎救助船舶数→4隻

10 主に力を入れている事業

①救難資機材の整備拡充

救難所の要望に応じ、救難用資機材を計画的に配布整備している。

②青い羽根募金運動の推進

「海の日」を中心に7月から9月までの3か月間を青い羽根募金協同運動期間として、県・市町村、海事団体、各企業に対し、依頼活動を積極的に行っている。

また、募金による寄付金収入から海難救助用物品等を購入し水難救済体制の整備を図っている。

③救難訓練の実施

救難所員の水難技術向上のため、救難所員を対象に関係機関と連携し、水難技術訓練を実施し、救難所員の技術向上に努めている。



海上保安部と救難所との合同訓練の様子



令和6年8月に発生した海難救助活動
(漂流船のえい航救助)

新設救難所等の紹介

海難救助の拠点となる、新たな救難所等が開設されています。今回は、令和5年10月以降に設置された5か所の救難所をご紹介します。なお、紹介文は、地方水難救済会の救難所からご提供いただきました。

特定非営利活動法人 神奈川県水難救済会

◆鎌倉救難所

- ◎令和5年11月5日設立 ◎所長ほか14名
- ◎所在地／神奈川県鎌倉市材木座6-15-18
SUGATA鎌倉マリーナ内

鎌倉救難所は、鎌倉市内の海水浴場の監視業務を担う、鎌倉ライフガードが中心となり地元漁業協同組合、海水浴場組合連合会、マリンスポーツ連盟、神奈川県ライフセービング協会などと協力し運営を行うこととして発足しました。鎌倉はマリンスポーツが1年を通じてとても盛んな地域で、多くの方が利用されています。この地に神奈川県水難救済会鎌倉救難所が発足したことは意義深く考えており、地域のお役に立てるよう努めて参りたいと思います。

中心となる鎌倉ライフガードは1989年に発足し、通年で活動を行っています。また、日本ライフセービング協会の加盟団体でもあります。鎌倉救難所員となることで湘南海上保安署との連携も密になり、補償や資機材も充実させていただくことができました。

日本水難救済会と日本ライフセービング協会の提携を現場レベルで具現化する存在として海の安全の新たな取り組みにチャレンジして参ります。



鎌倉救難所の皆さん

公益社団法人 琉球水難救済会

◆ハレクラニ沖縄救難所

- ◎令和6年4月1日設立 ◎所長ほか12名
- ◎所在地／沖縄県国頭郡恩納村名嘉真967-1

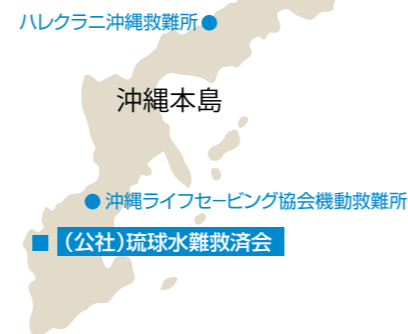
恩納村北部の美しい海岸線に立つ豪華リゾートホテル「ハレクラニ沖縄」。

三井不動産系列の他救難所の紹介を得て開所した救難所で、救助艇3艇を保有し、救難所員13人で運営しています。

ホテル前面海域においては、宿泊客等を対象に海洋レジャー事業を展開しており、また、周辺海域では観光客等が海辺でのレジャーを楽しんでいます。

近隣のリゾートホテルが運営する救難所もありますが、海域利用者へのさらなる安全安心にも繋がるとの認識から救難所の開設に至ったものです。

救難組織の密集する観光地域への開所で、水難事故発生時の体制を構築することができ、関係機関を含め、期待が寄せられています。



ハレクラニ沖縄救難所の皆さん

◆沖縄ライフセービング協会機動救難所

- ◎令和6年5月2日設立 ◎所長ほか50名
- ◎所在地／沖縄県中頭郡北谷町北前1-12-2 新田マンション1階

新型コロナ禍の沖縄の公共海水浴場では諸規制のため利用が制限された。観光客は、レンタカーで自由に出入りが可能な自然海岸へと移動した。その結果として、自然海岸での海難の発生率が多発し、併せて死亡者数も増加しました。

自然海岸での事故増加に対しては、琉球水難救済会もさることながら各関係機関も対応策に頭を悩ますこととなりました。

琉球水難救済会は、(一社)沖縄ライフセービング協会が、自己資金、自己責任で行っている危険海岸の巡回監視活動を「機動救難所」として運営できないかとの提案をなし、双方がウィンウィンの関係になれるとのことで実現しました。

首野太志所長以下51名のメンバーであるが、決して人集めでなく、首野氏が訓練を通じてメンバーのスキル等を確認し、「救助員としてOK」のお墨付きのメンバーです。

ライフセービング協会のメンバーは多数控えており、そう遠くないうちに救助員として登録されることであろう。

設立から約1か月には自然海岸で2件の救助活動が行われ、関係者から注目を受けるとともに、今後に期待が寄せられています。



沖縄ライフセービング協会機動救難所の皆さん

公益社団法人 福岡県水難救済会

◆旧門司救難所

- ◎令和6年4月1日設立 ◎所長ほか16名
- ◎所在地／福岡県北九州市門司区旧門司2-4-11

旧門司救難所は北九州市門司区北東部に位置し、潮の流れが速い関門海峡に面しています。海峡の一番狭いところは幅約650mとなっており、早瀬の瀬戸と呼ばれます。太平洋と瀬戸内海をつなぐ要所になっており、多い時には1日に約1,000隻の大型船や小型船が行き来します。潮流は速いときで10ノット(時速約18.5km/h)を超えることがあり、流れも1日4回変わり危険を伴う海域です。

その危険を伴う海域で私たちは漁師としてその地域に生息する魚介類を漁獲し地域の活性化に貢献しております。

また、近くには和布刈神社があり、御祭神は月の女神であり潮の満ち引きを司る「導きの神様」といわれています。1800年前の創建から今日に至るまで和布刈神社の神様はこの地で関門海峡を見守り続けております。

私たち旧門司救難所の所長及び16名の所員一同も海難事故の発生に備え万全の体制をとっております。

◆大里救難所

- ◎令和6年4月1日設立 ◎所長ほか6名
- ◎所在地／福岡県北九州市門司区大里本町3-12-2

大里救難所は、福岡県北九州市門司区大里(だいら)地区に位置します。対岸は山口県下関市で日本屈指の潮流で知られる関門海峡。本州と九州を繋ぐ関門橋の次に狭くなっているエリアが大里地区にあたります。潮流は10ノットあり、航路を行き交う大型船は毎日500隻前後。その中で漁労や遊漁船、浚渫船や警戒船など、日々あらゆる海上交通の要所に位置しています。

このように水陸、日々たくさんの方が行き交い、楽しんでいる地域でありますので、海上だけでなく陸上からの水難事故も少なくありません。以前から地域の水難救済に対する意識は強く、救難所の必要性を感じておりましたところ、福岡県水難救済会の松下副会長のお取り計らいにより設立の運びとなりました。これまでも事故救済等に協力してまいりましたが、今後は福岡県水難救済会の救難所として、より一層の活動に務めてまいります。



旧門司救難所の皆さん



大里救難所の皆さん

令和6年度第1回互助会理事会開催

互助会の理事会が開催され、「令和5年度事業報告及び収支決算(案)」と「令和6年度事業計画及び収支予算(案)」が審議されました。

令和6年10月17日、海事センタービル4階会議室において、日本水難救済会救難所員等互助会の「令和6年度第1回互助会理事会」が開催されました。

互助会理事会は、会長、理事長、理事3名、会計監査役1名の計6名が出席して行われ、議長の相原会長の挨拶の後、第1号議案 令和5年度事業報告及び収支決算(案)について、第2号議案 令和6年度事業計画及び収支予算(案)についての審議がなされ、第1号議案については、事務局長の江口常務理事から説明後、小島会計監査役から監査結果の報告がありました。その後議長が質疑を求めたところ、特段の意見等もなく第1号議案が承認されました。また、第2号議案については、事務局長から説明後、議長が理事に質疑を求めたところ、特段の意見等がなく、第2号議案が承認され、その後閉会となりました。



第1回互助会理事会の様子
左から時計回りに、三宅理事(日本漁船保険組合会長)、福田理事(長崎県水難救済会副会長)、遠山理事長、相原会長、江口事務局長、小島会計監査役(元海技教育財団理事長)、横山理事((株)海代表取締役社長)

相原会長挨拶



【第1号議案】令和5年度事業報告及び収支決算(案)について

1 令和5年度事業報告(令和5年10月1日から令和6年9月30日まで)

互助会は、平成20年10月1日に設立し、会員及びその家族の相互救済と福利増進を図る観点から、各種事業を行っており、今回が16期目の決算となります。

【1】加入者数について

令和5年度末の加入者数は18,905人(全国の救助員全体の約39.51%、前年度比1,018名減少)

【2】災害給付及び見舞金給付事業

(1)災害給付事業、(2)休業見舞金給付事業、(3)私物等損害見舞給付事業、(4)遺児等育英奨学金事業

「災害給付事業」、「休業見舞金給付事業」、「私物等損害見舞給付事業」、「遺児等育英奨学金事業」、については、令和5年度はいずれも該当する事例はなかった。

(5)災害見舞金給付事業

「災害見舞金給付事業」については、令和5年度においては、2名12万円を給付した。(能登半島地震により住宅に損害を受けた新潟県水難救済会救難所員2名への給付)

なお、能登半島地震に関しては、今後とも能登水難救済会と連絡を密にして災害見舞金給付事業を推進していく。

(参考:能登水難救済会 所員数294名、互助会加入者294名、加入率100%)

(6)互助会誌発行事業

互助会の事業成果、決算報告の会員への周知のため、互助会誌を発行する事業であるが、「マリンレスキュージャーナル」2024年1月号に互助会コーナーを設け、記載のとおり、理事会開催概要や、令和4年度事業報告、令和4年度収支決算書、令和5年度事業計画及び収支予算(案)を掲載した。

2 令和5年度収支計算書(令和5年10月1日から令和6年9月30日)

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異
I 事業活動収支の部			
1 事業活動収入			
(1)会費収入	10,250,000	9,474,500	775,500
互助会会費収入	10,250,000	9,474,500	775,500
(2)雑収入	901,000	1,403,918	△502,918
受取利息収入	1,000	8,657	△7,657
雑収入	900,000	1,395,261	△495,261
事業活動収入計	11,151,000	10,878,418	272,582
2 事業活動支出			
(1)事業費支出	2,190,000	2,315,064	△125,064
会誌発行費支出	300,000	305,064	△5,064
保険料支出	1,890,000	1,890,000	0
互助会給付金支出	0	120,000	△120,000
(2)管理費支出	3,304,000	3,169,502	134,498
人件費支出	1,650,000	1,581,355	68,645
会議費支出	13,000	17,856	△4,856
旅費交通費支出	100,000	0	100,000
通信運搬費支出	130,000	109,660	20,340
事務費支出	70,000	105,212	△35,212
電算機事務費支出	180,000	188,665	△8,665
印刷製本費支出	160,000	171,204	△11,204
光熱水料費支出	20,000	18,068	1,932
賃借料支出	890,000	889,294	706
諸謝金支出	11,000	10,314	686
雑支出	80,000	77,874	2,126
事業活動支出計	5,494,000	5,484,566	9,434
事業活動収支差額	5,657,000	5,393,852	263,148
II 投資活動収支の部			
1 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2 投資活動支出			
互助会給付引当資産取得支出	4,657,000	5,393,852	△736,852
投資活動支出計	4,657,000	5,393,852	△736,852
投資活動収支差額	△4,657,000	△5,393,852	736,852
III 予備費支出	1,000,000	0	1,000,000
当期収支差額	0	0	0
前期繰越収支差額	0	0	0
次期繰越収支差額	0	0	0

【第2号議案】令和6年度事業計画及び収支予算(案)について

1 令和6年度事業計画(令和6年10月1日から令和7年 9月30日まで)

【1】会員の募集について

令和6年度の会員数が、10月3日現在で、17,412人であり、全国の救難所員総数が減少しているため、互助会会員数も若干の減少が見込まれる。

引き続き、互助会の趣旨を周知する等して会員の募集に努める。

【2】災害給付及び見舞金給付事業等

(1)災害給付事業

会員が水難救助業務中に災害を受けた場合に、互助会が保険会社と保険契約を締結して、保険会社から本人又はその遺族に対して互助会規約の定めるところにより所定の給付を行う。また、会員が前記の災害により死亡した場合は、2万円を限度として花輪又は生花を遺族に贈る。

(2)休業見舞金給付事業

会員が水難救助業務中に負傷し又は疾病にかかり、従前得ていた業務上の収入を得ることができない場合に、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付する。

(3)私物等損害見舞金給付事業

会員が水難救助業務中に、当該業務の遂行中に携帯していた私物を破損、焼失、紛失等した場合に、規約の定めるところにより所定の見舞金を給付する。

また、会員が水難救助業務中に、当該業務の遂行中に使用していた船舶の船体・属具を破損した場合に、規約の定めるところにより所定の見舞金を給付する。



(4) 遺児等育英奨学金事業

災害給付を受けた会員の遺児(重度の後遺症を負った会員の子で、遺児と同等と認められる者を含む。)に対し、規約の定めるところにより、所定の奨学金を給付又は貸与する。

(5) 災害見舞金給付事業

会員が自然災害又は火災等により、住居及び家財又はそれらのいずれかに被害を被った場合に、損害の程度に応じて災害見舞金を給付する。

(6) 互助会誌発行事業

年1回発行のマリンレスキュージャーナルに互助会コーナーを設けて互助会の事業報告、決算報告等について会員への周知を図る。



2 令和6年度収支予算書(令和6年10月1日から令和7年9月30日)

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
(1) 会費収入				
互助会会費収入	10,000,000	10,250,000	△250,000	20,000人
(2) 雑収入				
受取利息収入	10,000	1,000	9,000	前年度実績額等
雑収入	1,000,000	900,000	100,000	
事業活動収入計	11,010,000	11,151,000	△141,000	
2 事業活動支出				
(1) 事業費支出	2,200,000	2,190,000	10,000	
会誌発行費支出	310,000	300,000	10,000	前年度実績額等
保険料支出	1,890,000	1,890,000	0	
互助会給付金支出	0	0	0	
災害給付事業	0	0	0	
休業見舞金給付事業	0	0	0	
私物等損害見舞金給付事業	0	0	0	
遺児等育英奨学金事業	0	0	0	
災害見舞金給付事業	0	0	0	
(2) 管理費支出	3,287,000	3,304,500	△17,000	前年度実績額等
人件費支出	1,600,000	1,650,000	△50,000	
会議費支出	18,000	13,000	5,000	
旅費交通費支出	100,000	100,000	0	
通信運搬費支出	130,000	130,000	0	
事務費支出	100,000	70,000	30,000	
電算機事務費支出	180,000	180,000	0	
印刷製本費支出	160,000	160,000	0	
光熱水料費支出	18,000	20,000	△2,000	
賃借料支出	890,000	890,000	0	
諸謝金支出	11,000	11,000	0	
雑支出	80,000	80,000	0	
事業活動支出計	5,487,000	5,494,000	△7,000	
事業活動収支差額	5,523,000	5,657,000	△134,000	
II 投資活動収支の部				
(1) 投資活動収入				
互助会給付引当資産取崩収入	0	0	0	
(2) 投資活動支出				
互助会給付引当資産取得支出	4,523,000	4,657,000	△134,000	
投資活動収支差額	△4,523,000	△4,657,000	134,000	
III 予備費支出	1,000,000	1,000,000	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	



救難所・支所のみなさんへ
500円/年で大きな安心

互助会に関する問い合わせ等は事務局(経理部)が承ります。

電話番号 03-3222-8066

FAX番号 03-3222-8067

MRJ フォーラム

(公社)日本水難救済会の通常理事会、定時社員総会等を開催

(公社)日本水難救済会では、令和6年3月中旬から10月下旬までの間に、理事会や定時社員総会を開催し、令和6年度事業計画(案)と収支予算(案)や令和5年度の事業報告(案)及び収支決算(案)などが審議されました。

■ 令和5年度第3回通常理事会の開催

令和6年3月14日に海事センタービルにおいて、令和5年度第3回通常理事会を開催しました。

理事会の開催にあたり、議長である日本水難救済会相原会長の挨拶とご臨席の海上保安庁警備救難部長の彼末浩明氏からご挨拶をいただいたのち、議案審議となりました。

- 議案は
- 第1号議案 令和6年度日本財団への助成金追加申請(新規)について
 - 第2号議案 令和6年度事業計画(案)について
 - 第3号議案 令和6年度収支予算(案)について
 - 第4号議案 会費納付の減免について
 - 第5号議案 新規会員入会の承認について
 - 第6号議案 定時社員総会の開催等について
- が審議され、それぞれ異議なく承認されました。

議案審議に先立ち1件の報告事項「能登半島地震への対応について」が遠山理事長より報告がなされ、その後議案審議がなされ、理事等からも特に意見等もなく、第3回通常理事会の議案審議は終了しました。



令和5年度第3回通常理事会の様子



海上保安庁 彼末警備救難部長挨拶



相原会長挨拶

■ 令和6年度第1回通常理事会の開催

令和6年5月17日に海事センタービルにおいて、令和6年度第1回通常理事会を開催しました。

理事会の開催にあたり、議長である日本水難救済会相原会長の挨拶とご臨席の海上保安庁警備救難部救難課長の上野春一郎氏からご挨拶をいただいたのち、議案審議となりました。

- 議案は
- 第1号議案 令和5年度事業報告(案)について
 - 第2号議案 令和5年度収支決算(案)について
 - 第3号議案 洋上救急出動協力費等に関する規則ほか洋上救急関連規則の一部改正について
 - 第4号議案 役員を選任(案)について
- が審議され、それぞれ異議なく承認されました。

議案審議に引き続き報告事項「職務の執行状況の報告について」「能登半島地震への対応について」「海そなえ」プロジェクトについて「令和6年度名誉総裁表彰受章予定者について」の4件について江口常務理事より報告がなされました。

その後議長から、次の定時社員総会で退任予定の内海理事に対し御礼の意が評され、内海理事から挨拶があり、その後第1回通常理事会は終了しました。



令和6年度第1回通常理事会の様子



海上保安庁 上野救難課長挨拶



相原会長挨拶



内海理事挨拶

■第132回定時社員総会の開催

公益社団法人日本水難救済会は、令和6年6月7日、東京都千代田区平河町の海運ビル2階ホールにおいて、定時社員総会を開催しました。

定時社員総会は、日本水難救済会相原会長（議長）の挨拶ののち、議案審議となりました。

議案として

第1号議案 令和5年度事業報告(案)について

第2号議案 令和5年度収支決算(案)について

第3号議案 役員の選任について

の3議案が審議され、それぞれ異議なく承認されました。

議案審議の後、

(1)令和6年度事業計画について

(2)令和6年度収支予算書について

(3)名誉総裁表彰式典の開催について

(4)能登半島地震への対応について

の報告がありました。

引き続き、石井昌平海上保安庁長官から挨拶があり、その後閉会となりました。

なお、第3号議案の「役員の選任について」は、第132回定時社員総会終結時をもって理事21名のうち3名の理事が任期満了となり、2名が再任1名が退任することとなりました。退任者の後任理事として、高瀬美和子氏の1名が承認されました。

また、18名については引き続き理事として再任することで承認されました。



相原会長挨拶



石井海上保安庁長官挨拶



定時社員総会の様子

■令和6年度臨時理事会の開催

令和6年6月7日、第132回定時社員総会終了後、3階会議室において理事13名及び監事2名が出席し、臨時理事会を開催しました。

開催にあたり、はじめに、新理事の紹介を行い、出席した高瀬理事から挨拶がありました。

その後、議案審議に入り、定時社員総会終結時をもって、業務執行理事（常務理事）の任期が満了となったことから、議案として

第1号議案 「業務執行理事（常務理事）の選任について」

の1議案が審議され、審議の結果、引き続き、業務執行理事（常務理事）として江口圭三氏が選任されました。



臨時理事会の様子

■令和6年度第2回通常理事会の開催

令和6年10月17日、海事センタービル4階会議室において、令和6年度第2回通常理事会が開催されました。

理事会の開催にあたり、本年6月9日開催の定時社員総会で新たに本会の理事となった近藤龍洋理事の紹介が行われ、引き続き日本水難救済会相原会長の挨拶の後、海上保安庁警備救難部救難課長の上野春一郎氏から挨拶をいただき、その後、議案審議となりました。

第1号議案 「令和7年度日本財団及び日本海事センター等に申請する予算(案)について」

第2号議案 「新規会員入会の承認について」

について審議され、それぞれ異議なく承認されました。

議案審議に引き続き報告事項「職務の執行状況の報告について」「令和6年「海の日」海事関係功労者国土交通大臣表彰受賞及び海上保安庁長官表彰受賞について」「能登水難救済会救難所等の被災・復興状況等について」江口常務理事より報告がなされました。



相原会長挨拶



海上保安庁
上野救難課長挨拶



令和6年度第2回通常理事会の様子

MRJ フォーラム 投稿

第一管区海上保安本部 水難救済会との連携・協力体制の 充実を目指して

第一管区海上保安本部

警備救難部長 藤田 望

第一管区海上保安本部は、北海道沿岸部を含む広大な海域を管轄しており、管内19事務所（海上保安部8、海上保安署8（分室1）、航空基地3）において、巡視船艇37隻、航空機10機の勢力により、日夜、海上保安業務にあたっています。

さて、水産資源の豊かな北海道では、従前から漁業活動が活発に行われていることに加え、昨今のマリレジャーの多様化により、近年は年90隻前後の船舶海難、年170人前後の人身海難が発生しているところ、道内には令和6年7月1日で創立50周年を迎えられた公益社団法人北海道海難防止・水難救済センターの救難所が107箇所設置され、海難救助体制の一翼を担っていただき、北海道沿岸域での海難発生時には、昼夜を問わず危険や困難を克服しながら献身的に捜索救助活動に努めていただいていることに対し、心より敬意と感謝を申し上げます。そして、令和5年度は、29件の海難事故への出動により、7隻の船と23名の尊い命を救助いただいていることに加え、令和4年4月に発生した知床遊覧船事故においては、救難所所属船により、広範囲かつ長期間にわたり捜索いただき、皆様の御尽力に改めて感謝申し上げます。

また、洋上救急事業では、協力医療機関として、道東地区4機関、道南地区8機関の医師・看護師の皆様に対応いただいているところ、令和6年9月には、道東の沖合500キロメートルで発生した外国漁船乗組員の負傷事故において、巡視船に医師、看護師が乗船して患者へ早急な医療処置を施し、病院へリポートまでの搬送に対応いただいています。



釧路航空基地機動救難士発足式

さらに、公益社団法人北海道海難防止・水難救済センター職員の方々には、道内各地において実施している講習会や小中学生を対象とした海の安全教室においても積極的に活動を行っていただき、海難防止に多大な貢献をいただいています。

「救える命は必ず救う」との使命感のもと、第一管区海上保安本部は歩みを止めることなく、先に述べました知床遊覧船事故を契機として、令和5年4月に釧路航空基地に機動救難士9名を配置し、さらに令和6年3月に同航空基地の回転翼航空機を3機体制として北海道東部海域の救助・救急体制を強化しました。釧路航空基地機動救難士は、発足後これまでに69件の海難現場へ出動し、22名を救助しています。（令和6年9月末日現在）

今後も「北海道の海の安全、安心を守る」ため、水難救済会の皆様とのさらなる連携・協力体制の充実に努めて参りますので、引き続きの御支援御協力をお願いいたします。



洋上救急慣熟訓練の様子



外国漁船から警備救難艇への患者搬送の様子



巡視船医務室での医師による医療処置の様子

令和6年における日本水難救済会 会長表彰受章者一覧 (敬称略)

(令和6年10月末日現在)

令和5年11月から令和6年10月末までにおける会長表彰受章者は次のとおりです。
受章された皆様の益々のご活躍を祈念いたします。

1 海難救助功労者の表彰

(1) 救助功労表彰(8名)

- 青森県漁船海難防止・水難救済会(1名)
(小泊救難所)長谷川正成
- 岩手県漁船海難防止・水難救済会(7名)
(大船渡救難所赤崎支所)磯谷三幸、磯谷良彦、熊谷輝喜、
協力者:磯谷皇紀、志田徳博、袖野雄、袖野里子

(2) 団体救助功労表彰(1団体)

- 千葉県水難救済会(1団体)
長生郡広域救難所

(3) 救助出動回数功労表彰

(令和5年4月4日～令和6年1月24日)(29名)

- 公益社団法人北海道海難防止・水難救済センター(2名)
20回(余市救難所)篠谷寿宏 (余市救難所)葛西哲夫
- 山形県水難救済会(1名)
20回(飛鳥救難所)齋藤勤
- 千葉県水難救済会(10名)
20回(新富津救難所)小泉敏
30回(鴨川救難所)山崎智文 (長生郡広域救難所)磯瀬一矢
50回(長生郡広域救難所)小栗正樹、町屋紀明、菅野麗
70回(長生郡広域救難所)井上幹生、堀江忍
80回(長生郡広域救難所)井上幹生、堀江忍
- 静岡地区水難救済会(1名)
20回(静岡広域DRS救難所)苅部徹
- 公益社団法人福岡県水難救済会(7名)
20回(野北救難所)西崎弘一 (芥屋救難所)藤原正幸
30回(神奏救難所)永島悠喜
60回(津屋崎救難所)井ノ上靖基 (大岳救難所)山田靖之
70回(津屋崎救難所)永島栄、間利夫
- 島根県水難救済会(3名)
20回(出雲救難所日御碕支所)目井敏正
30回(出雲救難所日御碕支所)春日英雄、高木佳久
- 特定非営利活動法人長崎県水難救済会(5名)
20回(野母崎救難所)内野教也
30回(野母崎救難所)濱田達也
50回(野母崎救難所)竹谷義輝
90回(野母崎救難所)濱崎勝哉
180回(野母崎救難所)濱田泰明

(令和6年1月25日～令和6年3月31日)(6名)

- 公益社団法人北海道海難防止・水難救済センター(3名)
20回(奥尻救難所)高橋明 (青苗救難所)髭隆
30回(奥尻救難所)石岡克夫
- 千葉県水難救済会(1名)
60回(長生郡広域救難所)町屋紀明
- 新潟県水難救済会(2名)
20回(山北救難所)大滝栄吉、渡辺康一



表彰状



救助功労章



団体救助功労盾



救助出動回数功労章
(50回)



救助出動回数功労章
(30回)



救助出動回数功労章
(20回)



救助出動回数章

(4) 勤続功労表彰(1名) ※「2024年1月号」の記載漏れ

① 20年勤続功労(1名)

- 大阪府水難救済会(1名)
(大阪地区救難所ヤザワ渡船支所)谷口真一



勤続功労章(20年)

(5) 退職職員の永年従事功労表彰(41名)

- 公益社団法人北海道海難防止・水難救済センター(11名)
(豊浦救難所)高森勝仁、根笹幸二
(えりも岬救難所)宇佐美浅吉、柿崎博芳
(根室救難所)大塚照靖、諸角昭、鎌田英雄
(歯舞救難所)樋口進、森崎文雄、本田敏己、武内誠一
- 新潟県水難救済会(15名)
(佐渡南部救難所)桃井元海
(佐渡南部救難所赤泊支所)後藤稔、岩崎力男、中川初男、菊地卯一郎、氏江庄次
(岩船港救難所)小田政市、大徳正義、渡辺和雄、武藤三郎、津軽栄、丸山久雄
(出雲崎救難所)小林則幸 (新潟救難所)増井啓一、井浦龍夫
- 島根県水難救済会(8名)
(出雲救難所日御碕支所)齋藤彰、上野智彦、木村昌夫、蒲生賢也、福岡文雄、蒲生晴夫
(出雲救難所鶴鷲支所)岡昭志、田中誠司
- 公益社団法人福岡県水難救済会(7名)
(大川救難所)古賀雅敏 (大和高田救難所)荒牧廣信 (相島救難所)三船大輔 (唐泊救難所)板谷英二
(西浦救難所)柴田幸治 (玄界島救難所)細江貴彦 (鐘崎救難所)占部勉



銀杯



木杯



有功章

2 洋上救助功労者の表彰

(1) 金色名誉有功表彰(1個人)

- 個人:1件 (出動9回)南部徳洲会病院 医師 原田宏

(2) 銀色名誉有功表彰(1団体、1個人)

- 団体:1件 (出動10回)日本医科大学付属病院
- 個人:1件 (出動6回)浦添総合病院 医師 米盛輝武



金色名誉有功盾



銀色名誉有功盾



金色有功盾

(3) 金色有功表彰(4個人)

- 個人:4名 (出動3回)日本医科大学付属病院 医師 寺岡晋太郎、日本医科大学付属病院 医師 増野智彦、
東海大学医学部付属病院 医師 足立基代彦、東海大学医学部付属病院 看護師 久保康隆

(4) 感謝状(1個人)

- 個人:1名 (勤続15年)八戸市洋上救急支援協議会 副会長 川村嘉朗

3 事業功労者の表彰

(1) 事業功労(1件)

- 個人:1名
前岩手県漁船海難防止・水難救済会 会長 大井誠治

(2) 青い羽根募金(令和6年1月～令和6年12月まで)

① 団体:延べ36団体

陸上自衛隊 那覇駐屯地、沖縄県、名護市、恩納村、一般財団法人沖縄船員厚生協会、琉球海運株式会社、荒浜漁港水産まつり実行委員会(宮城県 巨理町観光協会)、陸上自衛隊 福岡駐屯地、宗像市、福岡県、福岡県警察本部、若築建設株式会社 九州支店、福岡有明海漁業協同組合連合会、旭商船株式会社、SGホールディングス株式会社、株式会社熊谷組、近代化学株式会社、原燃輸送株式会社、五洋建設株式会社、三光海運株式会社、商船三井オーシャンエキスパート株式会社、東亜建設工業株式会社、東洋建設株式会社、若築建設株式会社、陸上自衛隊 帯広駐屯地、陸上自衛隊 名寄駐屯地、陸上自衛隊 八戸駐屯地、陸上自衛隊 船岡駐屯地、陸上自衛隊 武山駐屯地、陸上自衛隊 金沢駐屯地、陸上自衛隊 福知山駐屯地、陸上自衛隊 都城駐屯地、海上自衛隊 大湊在籍部隊、海上自衛隊 横須賀地方総監、航空自衛隊 三沢基地 隊員一同、別海町役場

② 個人:延べ16名



事業功労/名誉有功章



事業功労/有功章



事業功労/事業功労盾

編集後記

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
今号の作成にあたり取材協力や記事等ご協力いただいた皆さんに心から感謝いたします。
本年も広報誌「マレンレスキュージャーナル」をよろしく願います。

(編集委員一同)